

佳人之奇遇 三編

序

小説家の期する所は獨り趣向の巧妙を弄ひ世態人情を描出するにあらず假りて定見定理を示し容易に人心に貫徹せしめんとするものにして大に筆墨の外に期する所あるなり故に其敘する所の時に隨ひ處に従ひ又其人と勢とに由て世上百般の事を狀出し政治社會の事僻邑村落の狀人の貴賤心の高卑皆寫さる所なく或は其人をして人間の幸福を説かしめ學術の應用を示さしめ又或は美術の妙趣を講せしむるか如き其效用の社會に關する實に尠少なからざるなり

歴史家は人間社會の事を誌す然れども實事を實敘し偶々文字を以て之を潤色するに過ぎざるなり是故に古今の大家と雖も能く讀者をして其昔時に遡り其實地に當るの思をなさしむるもの稀なり小説家は之に異なり作者の意想に従ひ人物時勢を寫し其人

物の心術動作悉く幕上に躍出し筆其行かんと思ふ所に行き盡其止らんと欲する所に止り讀者をして自ら其地に立ち其時に居り其勢に乗するの想あらしむるものなれば固より歴史家とは大に其旨を異にす又夫の一國の政權を握り民間の政務を以て自ら任する大臣名士の如きも廣く世態人情を看破し古今を通覽し萬事を網羅して能く之を分析し又之を總括し泰然動かす千年の大計を定むるの智量見識を具ふるにあらずされは其位の高きと其實の重きも必ず億兆の望を満足せしむること難し而して小説を著す者能く毫端を以て天下を動かすを得へし身之を行はすして一國の政權を握り民間の政務を以て自ら任する者の爲す能はざる所を爲す其力亦大なりと謂ふべし

小説の世に力ある此の如くそれ大なり然り而して世の小説を著す者動もすれば其期すへき所を知らず専ら野卑猥雜の事を敘するにあらずされは徒に政治の眞談慷慨の激

論を述ふるに過ぎす抑政談なるものは世態人情の一分のみ故人盡く政談を以て業となし他に其職を有せざるの邦國あらは人文の極度に達したるの社會と謂ふ可からず故に政談を以て社會の大事となし其たを知らざるものは與に論するに足らず之を主となし更に其他を顧みざるの小説は美を盡し善を盡したるものと謂ふ能はざるなり

余が友東海散士久しく異邦に遊む其閑歴する所に就て一書を著し佳人之奇遇と目ふ志高きの士と智深きの女を假り西洋の理論を標準として東洋の國事を論し以て其懷を述へんとするものゝ如し趣向新奇にして大に我國從來の小説と異り而して散士の此篇は廣く人間萬物の現象を網羅し眞正の小説を著さんとして筆を捉りたるや將た偶然其感を述へんと欲して遂に此篇を爲したるものなるや否は全篇を通覽するに非されは未た之を知る能はざるなり想ふに幾多の士女流離困沛の中に奔走して君父の大難を救ひ國家の危急を助くる状を見れば獨り慷慨悲憤を事とするか如しと雖も後發功成り名揚るの篇に至らば徒に無病に呻吟す

るものに非ず必らず別に期する所あるを
 詳にするを得ん而して夫の米國新説男女
 同權論の如き身自ら之を講し之を行ひ讀
 者をして知らず識らず其眞面目を悟らしめ
 又時の已むを得ざるに出つれば雄壯活潑
 艱難に周旋するの女も其悠々家に在るの時
 方では靜婉濟德親子の情愛を傷らす大
 婦の大倫を案さす男子をして之を敬慕すへ
 き的女たるをしらしめ而して人生の幸福は
 貧富貴賤を論せず一家の親睦に在ることを
 知らしむるに終り其間都鄙の情狀を敘し
 學術の應用美術の精巧を述るに至らん歟
 然れども是果して散士の意なるや否や未た
 知る能はざるなり
 今年春散士歐米に遊ぶに臨み余に託
 するに此書出版の事を以てす頃者第五卷
 刻成る書肆來りて序跋の事を謀る余今の書
 を著す者を觀るに高官に請ひ名士に囑し
 其評論序跋題字を得て以てこれか拙を掩
 ひ其虚譽を釣らんとする者多し蓋し序跋を
 得んと欲せば其事を専らにし或は相戒
 るの知己に請ふへし然らざれば序跋ありて
 序跋なきに如かざるなり散士固より此に見
 るあり前篇皆其人を擇み苟も序跋を求め

す能く其旨を得たるか如し而して第五卷に
 至ては曾て自ら擇ぶ所あらず余も亦執筆の
 間之を他人に請ふの間なく又請ふべきの人
 あるを知らず因て悉く省かんとす然れと
 も書肆之を聴かす遂に余をして序せしむる
 に至る余は素より法律を事とする者此篇に
 序すへきの人に非ざるに似たり且つ從來余
 に法律書の序跋を囑するもの多し余徒に
 虚譽を助くるの思むべきを以て未だ曾て其
 需に應ずることあらず然り而して獨り此篇
 に序するものは散士と交るの最も深きを
 以てなり但余は散士の才學著述を稱揚す
 る者にあらず其才學は散士自ら之を示すへ
 く其著述は讀者亦之を是非すへし明治十九
 年小暑日芳暉園主人錄於礪川光雲閣

佳人之奇遇 卷五

ク屢々僕御ヲ從へ驅車ヲ驅ラハ人ノ耳目ニ觸レ
 易シ且ツ右顧左盼胸襟ヲ開テ以テ閣下ト親話ス
 ル能ハサレハ興味亦索然タルヲ免レス今日ハ即
 チ千歳ハ一時ニシテ而モ僕御ノ爲メニ煩累スル
 所トナル豈又遺憾ナラスヤ故ニ驅車ヲ捨テ僕御
 ヲ去リ更ニ小車ヲ驅リ唯タ閣下ト相携ヘテ我カ
 意ノ欲スル所ニ至リ雲ノ履ンテ花ヲ折り青草ヲ
 藉テ香風ニ嘯キ以テ心情ヲ娛マシムルノ趣アル
 ニハ若カスト守城長喜色ヲ呈シテ曰ク是レ僕
 ノ日夜願フ所唯タ令嬢ノ意ニ扞ハンコヲ恐レ
 テ未タ之ヲ言ハサルノ高意ニシテ眞ニ此ノ如
 クナラハ豈輕裝ノ遊ヲ好マサランヤト嗚乎彼レ
 色ニ迷ヒ慾ニ溺レ國家ノ大事ヲ遺レ妾等ノ計策
 ヲ覺ラス自ラ進ミテ陷阱ノ中ニ墮ツト更ニ語ラ
 ント欲シテ忽チ首ヲ低レ沈思紆慮謂フ能ハサル
 者ノ如シ既ニシテ曰ク話シテ此ニ至レハ妾聊カ
 郎君ニ向テ愧ツルモノアリ蓋シ彼レ本ヨリ齷齪
 斗符ノ才ニシテ財ヲ貪リ色ヲ好ミ忠ヲ忌ミ能ヲ
 害スルノ一賤丈夫ニ過キスト雖モ妾亦一處女
 ハ身ヲ以テ花柳ノ色ヲ粧ヒ狹斜ノ情ヲ飾リ之ヲ
 騙シ之ヲ欺クニ倣フ安ツ心ニ快トセンヤ今郎君
 妾カ謂フ所ヲ聞キ妾ヲ賤ミ妾ヲ疎スルノ念ヲ萌
 サンコト恐ルハナリ唯タ是レ交友ノ誼已ム可カ
 ラサルニ出ツ冀クハ郎君之ヲ察セヨト散士曰ク

凡ソ。浮世ノ事。時ト勢トニ由テ變ス。若シ令嬢ニシテ私欲ノ爲メニ人ヲ欺キ色情ノ爲メニ人ヲ陷ルルノ計策ヲ行ハ、余ハ令嬢ヲ惡シ令嬢ヲ疎シ又令嬢ト相見ルヲ欲セサルナリ。若シ夫レ然ラス苟モ令嬢ニシテ果シテ天下ノ爲メニ小人ヲ欺キ國家ノ爲メニ姦臣ヲ陷レ以テ懲戒ノ鑑トナシ以テ勸導ノ階トナサハ、余ハ則チ令嬢ノ偽言モ之ヲ助ケ令嬢ノ欺計モ之ヲ贊ケ相共ニ大ニ力ヲ盡ス可シ。今令嬢カ蘭蘭女史ノ忠孝ノ囑託ヲ重シ正義ノ爲メニ身ヲ屈シテ姦徒ヲ陷ル、カ如キ澆淫浮薄ノ今日ニ當テ或ハ利ヲ見テ義ヲ忘レ或ハ危キニ臨テ志ヲ變シ或ハ時ヲ知ラス勢ヲ察セス儉安筆ヲ弄シ兀坐舌ヲ鼓シ徒ニ他人ヲ貶議スル者ノ爲メニ悅ハレサルヘシト雖モ余ハ則チ令嬢ノ志ヲ憐ミ令嬢ノ行ニ感シ俱ニ力ヲ同スル能ハサリシハ憾ムハミ。蓋シ人アリ其胸襟ヲ吐露シ余カ救援ヲ請フ者アラハ義氣ノ激スル所精神ノ感スル所骨ヲ碎キ身ヲ殺スモ猶ホ悔イサル可シ。玆瑣瑣タル偽言詐術固ヨリ聞フ所ニ非サルナリト。紅蓮之ヲ聞テ曰ク。郎君ノ志果シテ此ノ如キカ。妾何ソ。詳ニ之ヲ語ラサランヤ。

既ニシテ悉ク驛車ト僕御ト去リ安守城長ト一小車ニ乗シ城市ヲ出テ南ニ去ル。一里許リ安莞爾トシテ謂テ曰ク。今日ノ遊樂キカト守

城長曰ク。昨夕ハ反臣ト車ヲ同ウシ今朝ハ仙妃ト駕ヲ伴ニス。昨ハ非ニシテ今ハ是ナルモノト妾故サラニ笑テ曰ク。先キ閣下カ妾ヲ忘レ妾ヲ疎シ車ヲ同ウシ手ヲ攜ヘ聞吟清味情ヲ怡ハシメ心ヲ樂マシムルノ地ハ何ノ邊ソヤ想フニ靜閑幽邃塵客俗人ノ情話ヲ妨クル者ナカラント守城長緩ヲ緩ウシ笑テ指シテ曰ク。那處ニ在リ。實ニ蕭岑トシテ令嬢カ謂フ所ノ如シ。今日亦那處ニ應テ以テ相語ランカ。我カ情話ヲ聞クモノハ翠柳ノ孤島ノミ。我カ艶語ヲ娛モノハ綠柯ノ殘蟬ノミ。清流ノ潺潺タル心ナクシテ我カ雙影ヲ寫シ涼風ノ習習タル情多クシテ我カ衣裳ヲ吹ク眞ニ得易カラサルノ勝地ナリト。且ツ笑ヒ且ツ語リ漸ク山橫水流ノ邊ニ入ル。安望遠鏡ヲ出シ東西ノ村落ヲ指點シ遠邇ノ森林ヲ下瞰シ其山名ヲ問ヒ其水姓ヲ識キ陽ニ風光ノ美ナルヲ賞シ陰ニ地勢ノ險夷ヲ探リ鉞軍ヲ提リ白紙ヲ展ヘ其奇景ヲ寫スカ如クシテ山徑ヲ究メ水支ヲ明ニシ卒ニ一小地圖ヲ製セリ。又行ク。數町遙ニ石橋ノ高ク溪流ニ架スルヲ見ル時ニ青天湛然炎暑漸赫旱氣轉タ甚ダシ守城長車ヲ橋下ニ留メ馬ヲ綠蔭ニ維キ首ヲ回シ一巨石ノ水涯ニ橫ハルヲ指シテ曰ク。僕ノ始メテ兩將軍ト此地ニ遊フヤ彼ノ石上ニ憩ヘリ當時僕警衛ハ大任ヲ負ヒ反逆ハ大囚

ヲ伴ヒ此無人ノ境ニ入ル。若シ人アリ來リ奪ハ其禍害ノ及フ所獨リ僕ノミナラス國家ノ安危ニ關スル亦期ス可カラス。是以テ深林ニ對スレハ其伏兵ノ潛ムアランコトヲ恐レ巖石ニ逢ヘハ刺客ハ匿ルハアランコトヲ慮リ身ハ此清幽ノ佳境ニ在テ此苦心焦慮ヲナシ而シテ令嬢ヲ見テ情ヲ敘シ一日ヲ永ウシテ懷ヲ娛マシムルヲ能ハス。孤島ノ喃喃タルハ懷怨ノ聲ヲナシ流水ノ潺潺タルハ惆悵ノ響ヲナス。其情何ソ堪フ可ケンヤ。然レモ今日卒然令嬢ト手ヲ携ヘテ此地ニ遊フヲ得タリ。昨日苦心焦慮ノ地ハ頓ニ目ヲ娛マシメ神ヲ怡ハシムル處トナリ。昨日懷怨惆悵ノ音ハ忽チ情ヲ樂マシメ耳ヲ喜ハシムルノ聲トナレリ。唯タ恨ム明日復タ彼老餘ノ因徒ト車ヲ同ウセサル可カラス。而シテ又令嬢ヲ見ル能ハサルノミ。鄙語ニ曰ク。月明ナラント欲スレハ浮雲之ヲ掩ヒ花漸ク發テ風雨之ヲ散スト。人事ノ意ノ如クナル能ハサル眞ニ歎ス可キ哉ト。妾愀然トシテ車ヲ下リ秋波情ヲ凝シ斜ニ守城長ヲ見テ曰ク。月ニ浮雲アリ花ニ風雨アリ閣下ノ言ノ如シ。妾亦今日ノ行樂ニ感シ明日ノ愁情ヲ思ヒ怨恨ハ笑悅ノ中ヨリ生スルヲ如何セン。蓋シ妾ハ敢テ閣下ヲ疑フニ非ラスト雖モ癡情ノ結フ所末タ果シテ閣下ノ將軍ト車ヲ此間ニ驅ルカ將タ妾カ聞ク所ノ如ク佳人ト手ヲ攜ヘテ



(源木本)

長城守通紅

涼ヲ那達ニ趁フヤ否ヤヲ明ニスルヲ能ハサル
ナリ妾ハ明日閣下ノ言ヲ證センカ爲メニ馬ニ騎
シ此地ヲ逍遙シ閣下ニ邂逅シテ其虛實ヲ決セン
トスト守城長愕然トシテ曰ク先キニ僕ハ令嬢ニ
語ル所ハ實ニ國家ノ祕事父子ノ間ト雖モ洩ス可
カラサル者而ルニ令嬢我カ言ヲ信セス明日來
リ會セハ之ヲ見ル者誰カ僕カ機密ヲ洩スヲ疑
ハサランヤ特ニ僕カ終世ノ沈淪ノミナラス實ニ
國家ノ大事ナリ願クハ令嬢來ルヲ勿レ必ス重
ネテ相共ニ遊ハンノミト妾頭ヲ掉デ曰ク閣下カ

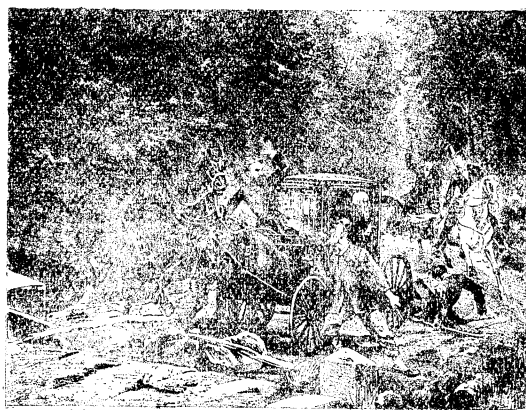
妾ヲ拒ム所以ハモノ則チ妾カ疑フ所以ナリ妾ハ
既ニ一身ヲ以テ閣下ノ生殺ニ任セント欲ス閣下
ハ行爲ヲ明ニセスシテ可ナランヤト守城長且
ツ慰メ且ツ説キ辯解甚タ易ム妾少ク色ヲ作
シ聲ヲ囁マシテ曰ク此地ハ靜幽ノ住境タリ來リ
遊ブ者固ヨリ獨リ妾等ニ限ラス且ツ妾ハ羈旅ノ
一女子ノミ閣下ト相逢フヲ知ルモノアリト雖モ
安ソ敢テ深ク怪マンヤ然リ而シテ閣下痛ク妾ヲ
拒テ來リ見ルヲ許サス豈更ニ疑ハサルヲ得
ンヤ妾カ心ハ石ニ非ラス轉ス可カラス妾カ心ハ
席ニ非ラス卷ク可カラス妾ハ誓テ閣下ノ幽將軍
ト車ヲ共ニスルヲ見サレハ止マルナリト或ハ
疑フカ如ク或ハ怨ムカ如ク或ハ戀フカ如ク或
ハ憤ルカ如ク以テ彼カ心思ヲ攪亂ス守城長妾
カ歡心ヲ失ヒ妾カ憤怒ヲ増サントテ恐レ聲ヲ和
ケテ曰ク令嬢ノ眞意此ノ如クナレハ宜シク令嬢
ハ欲スル所ノ如クナルヘシ唯齊吏輩ノ怪ム所ト
ナルヲ勿レト妾心竊ニ喜ヒ語ヲ轉シ歩ヲ移シ
又車ニ乘シ馬ニ鞭チ更ニ幽邃ノ中ニ入り愈ミ
佳景ノ境ヲ見テ施施トシテ行キ漫漫トシテ遊ヒ
終ニ歸路ニ就ク妾計策ノ略ホ成ルヲ喜ヒ又前途
ハ測リ難キヲ慮リ胸中紛擾語ラント欲シ語ル
能ハス笑ハント欲シテ笑フ能ハス又彼ノ疑フ所
ナルヲ恐レ曲ケテ笑容ヲ作り務メテ快樂ヲ粧

ヒ遂ニ相伴テ旅館ニ還ル時ニ日漸ク沈テ街頭
燈火ノ點スルヲ見ル妾時機正ニ明日ニ迫ルヲ以
テ心事匆忙忡忡トシテ安シス速ニ守城長ヲ返
シ幽蘭范老ノ二人ト共ニ詳ニ其計策ヲ議シ之カ
準備ヲナサント欲ス而シテ守城長猶ホ旅館ニ留
リ未タ去ルヲ欲セス自ラ晚餐ヲ命ジ幽蘭女史ヲ
呼ビ當日ノ遊興ヲ語リ悠然晏居諧謔冗語妾ヲ
テ復タ二人ト相語ルヲ能ハサランヤ妾憂悶愁思
肺肝ヲ刺スカ如ク頭腦ヲ碎クカ如シ郎君妾カ當
日ノ苦心ヲ察セヨト言ヒ畢リテ酒瓶ヲ倒ニシ
テ一杯ヲ傾ケ胸ヲ撫シテ大息ス
少焉アリテ又語ヲ繼テ曰ク既ニシテ晚餐ヲ終リ
妾守城長ニ謂テ曰ク閣下今日妾カ爲メニ綏ヲ
攜ヘ鞭ヲ執リ親ヲ僕御ノ任ニ當レリ其疲勞如
何ソヤト守城長笑テ曰ク僕令嬢ノ側ニ在
ラハ恍トシテ蓬萊ニ遊フカ如シ何ソ苦艱ト疲勞
トヲ辭センヤ唯令嬢ノ果ヲナスヲ恐ルノミト
漸ク身ヲ起シテ辭シ去ル三人直ニ密房ニ入ル妾
覺エス聲ヲ爲シテ曰ク咄彼ノ癡漢我カ黃金ノ光
陰ヲ消スト幽蘭女史慰メ問テ曰ク且ツ神ヲ安ン
シテ今日ノ吉凶ヲ語レト妾乃チ懷ヲ探リテ
寫ス所ノ小地圖ヲ出シ示シテ曰ク密計殆ト竅
ニ中レリ是レ妾カ今日談笑行歩ノ中ニ作ル所ナ
リ甚タ分明ナラスト雖モ亦以テ計策ヲ講スル

ニ足ラント依テ指點シテ其山勢水態ヲ諳リ其行
裝準備ヲ計ル時ニ夜既ニ深ク四面閑寂トシテ
風聲ノ靜ニ戸外ニ響クヲ聽クノミ幽蘭女史曰ク
更蘭ニシテ市店皆已ニ眠ル器械ヲ購ヒ以テ明旦
ハ備ヲ爲ス能ハス其レ之ヲ如何ス可キト范老曰
ク陋奴モ亦是ヲ以テ大ニ念トナセリ嗚呼吾畢生
ハ大事智ヲ盡シ身ヲ勞シ漸ク將ニ成ラントシテ
而シテ深宵ノ故ヲ以テ終ニ其志ヲ達スル能ハサ
ルカト妾亦嘆シテ曰ク彼賤丈夫ヲシテ去ルコ
早カラシメハ豈我カ此憾ミアランヤト聲未ダ了
ラス窓外滴瀝ノ響アリ范老戸ヲ開ケハ一陣ノ涼
風雨ヲ吹テ嫋嫋ニ入ル翠簾飄リ彩燈消エント
范老急ニ戸ヲ穿ツ妾大ニ喜テ曰ク噫々皇天未
タ我ヲ棄テス惠ムニ今宵ノ雨ヲ以テス我カ計策
必ス成ランハミ父悲歎スルヲ要セスト幽蘭女史
曰ク何ノ故ソヤト妾カ曰ク王羅城ノ郊外ニ
遊フヤ將軍ノ保護ヲ計ルニ在リ故ニ風雨ヲ冒
シ泥濘ヲ凌キ而シテ必ス行カント欲スルニ非ラ
ス想フニ應ニ新晴ヲ待チ而シテ駕ヲ命センノミ
妾等因テ一二日ノ間ヲ得テ徐ニ計畫密議スル
ヲ得ント風雨益々甚ダシク簾滴ノ聲愈々喧シ妾
等カ前途ノ計畫モ亦明旦ニ非ラサルヲ知り胸
襟僅ニ綽然タルヲ得タリ妾又地圖ヲ把テ反覆
其計策ヲ説キ且ツ曰ク此事成ラハ何ノ地ニ奔

而シテ可ナランカ佛國最モ便ナリト雖モ境界嚴
肅ニシテ電線通セサル處ナク追迹亦必ス急激ナ
ラン皇兄ヲ戴キ將軍ヲ慕フノ南方ニ近レカ是
レ亦人ノ最モ意ヲ注ク處ニシテ政府ノ警察彼ヨ
リ密ナルハナカラン妾甚タ之ニ恐ハサルヲ得ス
ト幽蘭女史ノ曰ク妾モ始メ之ニ迷ヘリ然レトモ
漸クニシテ其計畫ヲ得タリ蓋シ幸ニ老父ヲ奪フコ
ヲ得ハ直ニ路ヲ東北ニ取り其備ヘサルニ出テ力
メテ蹤跡ヲ晦シ伊武浪河ヲ渡リ伊太利ニ航シ歐
洲ノ俠勇自由ノ泰斗タル峨馬治ニ倚ラント欲ス
ルナリ其一諾ヲ得テ而シテ去就ヲ決セハ天下ノ
強國モ亦以テ奈何トモスルヲ能ハス身ハ泰山ノ
安キニ在テ遂ニ前狼後虎ノ患ナカラン想フニ老
父ノ見ル所モ或ハ之ニ同シカランカト范老案ヲ
拍テ曰ク此計最モ妙ナリ孫子曰ク水ノ形ハ高ヲ
避ケテ而シテ下ニ趨リ兵ノ形ハ實ヲ避ケテ而シ
テ虛ヲ擊ツト又曰ク千里ヲ行テ而シテ勞セサル
モハ無人ノ地ヲ行ケハナリト今日ノ事兵事ニ
非ラスト雖モ之ニ鑑ミテ謀ヲ講セハ大過ナカル
可シト妾モ亦之ヲ贊シテ議即チ決ス時ニ案頭
ノ自鳴鐘鏗鏗トシテ第四點ヲ報ス明早風漸
ク收マリ雨未タ歇マス范老英船ノ水手ト稱シ市
ニ出テ三個ノ短銃ト二個ノ男裝トヲ購ヒ妾等
ハ房中ニ在リ行李ヲ整ヘ書冊ヲ火シ各々明日

ノ準備ヲ爲ス日既ニ响午ヲ過キ煙霏ヒ雨散シ
清涼初秋ニ似タリ幽蘭女史カ曰ク王羅モ亦是
レ姦猾多智ノ個ノ老漢ナリ尙ホ其動靜ヲ詳ニシ
情ヲ飾リ意ヲ迎ヘ彼ヲシテ更ニ疑フ所ナカラシ
ム可シト妾乃チ人ヲ遣シテ之ヲ招キ幽蘭女史ト
故サラニ間難倫狀ヲ裝ヒ諸語懇言以テ彼
カ動止ヲ試ム彼既ニ心骨落然トシテ悠悠歎語
又史ニ怪訝ノ態アルヲ見ス談笑差々久ウシテ
彼レ將ニ歸リ去ラントス妾其手ヲ握リ微笑シテ
曰ク夜來多情ノ雨行路ヲ遮リテ今日手ヲ握ルノ
歡樂ヲ導キ今宵無頼ノ風掃雲ヲ掃テ明日臂ヲ把
ルノ佳興ヲ妨ケ然レモ若シ幸ニ好機ヲ得ハ翠野
碧溪ノ間ニ逍遙シテ遠ク玉妾ヲ認メテ妾カ相思
ハ情ヲ慰メハト彼レ乃チ首ヲ同シ笑テ曰ク是
レ亦僕ノ望ム所ナリ但令嬢必ス他人ノ怪ム
所トナルコト勿レト門ヲ出テ去ル此夜妾館主
ヲ呼ビ託シテ曰ク妾等明日聯騎郊外ニ遊ハン
ト欲ス願クハ爲メニ頭ノ駿馬ヲ備ヘヨ性柔
順ニシテ疾足ナルモノヲ可ナリト爲スト又地圖
ヲ開キ范老ニ示シテ曰ク先ツ此松林ニ至テ妾
等ノ到ルヲ待テト即夜范老行李ヲ負ヒ農夫ノ裝
ヲ爲シテ去ル翌旦ニ至テ妾等モ亦素飾輕軛シ
テ出ツ幽蘭女史白馬ニ騎シ妾驕馬ニ鞭チ馳セテ
郭門ニ達ス二人ノ警吏アリ佇立シテ道路ヲ視



(畫插本局)

國ノヲ奪テ軍將曲

察ス一人進テ我カ馬前ヲ遮リ幽蘭女史ヲ止メ將
ニ問フ所アラントス他ノ一人急ニ來リテ其肩ヲ
打チ暫ク耳語シテ相共ニ笑ヒ徐ニ進路ヲ開テ曰
ク貴嬪行矣父問フ所有ル無シト蓋シ彼ハ守
城長ノ家奴ニシテ能ク妾等ヲ知ル者又敢テ怪マ
サルナリ一夜ノ雨、半日ノ晴、泥路新ニ乾テ馬
蹄塵ヲ颺ケス既ニシテ松林ノ蒼鬱タルヲ見ル
妾乃チ馬ヲ進メテ其中ニ入ル范老獨リ樹根ニ踞
シ行李ヲ側ニシ煙ヲ吹テ妾等ノ至ルヲ遲テリト
紅蓮尙ホ言フ所アラントス時ニ老僕數顧ノ果實

ヲ竹籃ニ盛り入り來リテ曰ク邸後ノ林橋漸ク熟
スルニ似タリ何ツ甘酸ヲ試ミサルト紅蓮直ニ小
刀ヲ把リ一顆ヲ切テ兩片トナシ一片ヲ以テ散
士ニ與ヘ自ラ一片ヲ喫シテ曰ク嗚乎是レ仙掌ノ
甘露ニ勝ル妾カ喉舌僅ニ泥フヲ得タリ請フ更
ニ其後ノ狀ヲ語ラン
范老乃チ行李ヲ開キ紐束ヲ變セシム妾等直ニ
衣ヲ脱シテ男裝ヲ穿チ頭ニ烏黑ノ高帽ヲ戴キ目
ニ鴨綠ノ眼鏡ヲ掛ケ假髯を下ヲ掩ヒ短銃腰ニ
在リ遠ク之ヲ望メハ堂堂タル兩個ノ好丈夫ナリ
相見テ覺エス一笑ス笑聲未タ終ラズ原頭遙ニ
西馬ノ嘶クアリ我カ馬亦耳ヲ聳テ、相和セン
ト欲ス范老急ニ木枝ヲ取り馬口ニ銜シ更ニ一條
ノ麻索ヲ以テ固ク其上ヲ結ヒ嘶鳴スル能ハサラ
シム暫クニシテ二騎アリ轡ヲ並ヘ左視右顧シ
テ過ク范老林間ヨリ之ヲ見テ節ヲ拍テ曰ク嗚乎
皇天未タ我ヲ捨テス今日ノ事既ニ成矣ト妾問
テ曰ク何爲レソ此言ヲ爲スト范老曰ク彼ハ即
チ警吏ノ路上ヲ斥候スルモノナリ彼ヲシテ來ル
ト一刻遲カラシメンカ我ヲシテ去ルト一刻早カ
ラシメンカ我策悉ク彼ノ發現スル所トナリ替日
ノ苦心轉瞬ノ間ニシテ徒ニ畫餅ニ歸センノミ眞
ナル哉機會ノ來ル間ニ髮ヲ容レサルヤト直ニ疾
奔シテ橋邊ニ至ル妾幽蘭女史ト之ヲ望メハ范老

身ヲ屈シテ數個ノ大石ヲ運轉シカフ極メテ路上
ニ亂列シ礮落崎嶇車馬ヲシテ通ス可カラサラシ
ム既ニシテ還リ來リテ曰ク浩父鞭ヲ擧ケテ八龍
ヲ御スルモ王羅ノ車那處ニ留マランノミ老奴其
側ニ伏シ銃ヲ發シテ號ヲ爲シ以テ彼ヲ劫サン兩
娘直ニ馬ヲ驅リ大聲叱呼シテ來リ追レト再ヒ身
ヲ轉シテ去ル妾等年猶ホ壯ニシテ意氣最モ雄ナ
リト雖モ骨柔ニ肱弱ク其成否未タ計ル可カラス
范老其人ノ如キハ親ヲ經歷スル所頗ル多ク老成
着實事ニ臨テ而シテ權謀ヲ好テ而シテ成ス者
眞ニ得易カラサルノオナリ今妾等ノ此人ヲ得タ
ルハ亦是レ昊天ノ誠忠ヲ儆ムノミ少時ニシテ幽
蘭女史小邱ニ上リ直ニ下リ忙シク告ケテ曰
ク一輛ノ馬車橋邊ニ向テ來ルト妾之ヲ聞キ心胸
鼓動脈脈トシテ波瀾ノ如シ乃チ氣ヲ鼓シ勇ヲ振
ヒ躍テ馬ニ跨リ草葉木枝ヲ隔テ、之ヲ見ル歷歷
トシテ辨ス可シ御者鞭ヲ執テ車前ニ坐シ警吏劍
ヲ帶ヒテ其左ニ倚リ守城長幽蘭將軍ト相語テ其
中ニ並坐ス馬車漸ク橋邊ニ近ツカントスルニ方
リ一發ノ礮聲忽然樹間ニ響ク守城長大ニ驚キ聲
ヲ放テ曰ク賊アリ賊アリ馬ニ鞭チ速ニ走レト語
未タ終ラス乍チ又爆然ニ聲警吏ヲ射テ之ヲ傷ク
警吏倒レテ路側ニ墮ツ妾等機ニ乘シ短銃ヲ提ケ
馬ニ鞭チ之ニ迫ル守城長御者ト魂散シ魄離ハレ

其成所ヲ知ラス唯タ力ヲ極メ鞭ヲ輪シ馬背ヲ
亂打ス馬父大ニ駭キ驚テ振ヒ蹄ヲ揚ケ橋畔ニ向
テ走ル忽チ巨石ノ路上ニ横ハルニ逢ヒ進マント
欲シテ進ム能ハス道路狹隘ニシテ追騎後ニ在リ
退カント欲シテ退ク能ハス周章狼狽ノ狀想フ可
シ幽蘭女史急ニ西語ヲ以テ疾呼シテ曰ク伏兵速
ニ出テ凶賊ヲ誅シ忠良ヲ救フハ此一舉ニ在リ
ト御者之ヲ聞キ鞭ヲ捨テ自ラ水中ニ投ス守城長
モ亦身ヲ跳ラシテ遁レント欲ス范老之ヲ認メテ
大ニ怒リ一拳撃テ車下ニ倒シ直ニ進テ短銃ヲ擬
ス妾之ヲ留メテ曰ク彼レ姦惡已ニ貫盈スト雖モ
豈漫ニ殺スニ忍ヒンヤト時ニ幽蘭女史馬ヲ下テ
其傍ニ在リ即チ馬口ノ麻索ヲ解キ范老ニ與ヘテ
守城長ヲ縛セシメ自ラ車上ニ向ヒ將軍ノ手ヲ取
リ扶ケテ車ヨリ下シ涙ヲ揮ヒ告ケテ曰ク此二人
ハ兒カ刎頸ノ友ニシテ皆生ヲ捨テテ今日阿爺カ
危急ヲ救ヘル者ナリ先ツ此處ヲ避レテ而シテ後
詳ニ其顛末ヲ語ラント范老守城長ヲ縛シ且ツ白
巾ヲ以テ其面ヲ覆ミ引テ林中ニ至リ固ク樹根ニ
繫キ又前ニ脱スル所ノ女裝ヲ携ヘ來リテ妾等ニ
與フ妾即チ幽蘭女史ト相扶ケテ男裝ヲ去リ將軍
ト范老トヲシテ之ヲ着セシメ再ヒ身ヲ變シテ馬
上ニ跨ル范老亦服ヲ變シ直ニ車轅ヲ毀チ馬綏ヲ
斷チ其二馬ヲ解キ右手ニ纏纏ヲ執リ左手ニ將軍

ヲ摩キ呼テ曰ク閣下請フ先ツ之ニ騎セヨト更ニ
舊衣ヲ執テ河流ニ投シ自ラ他ノ一馬ニ跨ル幽蘭
女史將軍ニ問テ曰ク將ニ何ノ地ニ遁レントスト
將軍曰ク命ヲ皇天ニ委ネテ路ヲ東北ニ取リ伊太
利ニ向ハントミト女史ノ曰ク老父ハ見ル所亦兄
ト異ナルトナント是ニ於テ四人鑢ヲ連鞭ヲ鳴
ラシ塵ヲ颺ケ沙ヲ捲キ將軍之カ先導トナリ路
ヲ無人ノ境ニ取リ東北ニ向テ馳奔スルコト十餘
里漸クニシテ餓渴交ミ迫ル將軍勇壯鑢鑢意氣
世ヲ蓋フノ風アリト雖モ久シク困圍ノ中ニ在リ
肉癢セ神衰ヘ之ニ加フルニ當日騎スル所ノ馬鞍
ナク鑢ナク最モ四肢ヲ勞スルヲ以テ困憊殊ニ甚
タシ既ニシテ日暮レ馬疲レ之ヲ牽ケトモ動カス
之ヲ鞭テトモ進マス四人已ムヲ得ス馬ヲ棄テハ
歩ス時ニ雲暗ウシテ星河光ナク風起リテ山雨降
ラント欲ス路上閑閑險夷ヲ辨セス一步一息唯脚
ニ任セテ行ク夜漸ク深ウシテ疲憊亦極マリ遂ニ
一步ス可カラサルニ至ル首ヲ回セハ一條ノ岐
路アリ相去ルコト甚ダ近クシテ茅屋ノ路傍ニ
在ルヲ認ム皆悦テ曰ク以テ一餐ヲ求ム可シト
近テ之ヲ見レハ路上ノ馬既ナリ荒寥閑寂人ノ
敢テ守ルモノハナシ皆大ニ望ヲ失フ然レモ又歩
ヲ移ス能ハサルヲ以テ相攜ヘテ樓上ニ登ル蛛
網縱橫塵埃寸積咽調フ可カラス身ヲ轉シ其中

ニ臥ス范老首ヲ舉ケテ窓隙ヨリ遙ニ孤燈ノ林間
ニ映スルヲ見身ヲ起シテ曰ク老奴請フ去テ食
ヲ求メント直ニ樓ヲ下リ故サヲニ階ヲ撒シテ去
ル妾等積勞ノ餘覺ニス暇ニ就ク暫クニシテ霹
靂一聲吾カ夢ヲ破ル驚テ目ヲ開ケハ金蛇閃閃壁
ヲ穿テ入リ雷聲隱隱山ヲ破テ來ル狂風茅屋ヲ捲
カント欲シ驟雨江河ヲ傾クルニ似タリ未ダ久シ
カラス近ク人馬ノ聲アリ雷音雨響ト相混シテ至
ル妾身ヲ起シ急ニ幽蘭女史ニ耳語シテ曰ク彼聲
豈追兵ノ迫ルニ非ラスヤト語未タ終ラス戶外喧
騷或ハ呼テ曰ク發見セリ發見セリト妾之ヲ聞キ
以爲ラク命運茲ニ極マレリト胸暢暢トシテ悸キ
怒氣勃勃トシテ發ス乍ニシテ十數人ハ士卒戸ヲ
排シテ入ル一人火ヲ點シテ曰ク幸甚幸甚薪炭此
ニ在リ火爐彼ニ在リト相集マリテ火ヲ樓下ニ燒
キ濕衣ヲ脱シ之ヲ乾シテ談笑ス妾等力意少ク安
ンス士卒火ヲ燒クコト益々熾ニ煙漸ク樓上ニ滿
チ袖ヲ掩テ之ヲ防クモ避ク可カラス呼吸ニ隨テ
鼻口ノ間ニ出入シ叫ハント欲シテ叫フ能ハス起
タント欲シテ起ツ能ハス苦艱煩悶眞ニ堪フ可カ
ラサルニ至ル妾聲ヲ潛メテ曰ク空シク命ヲ炤煙
ノ中ニ失ハシヨリハ寧ロ決闘シテ死ス潔スル
ニ若カスト幽蘭女史制止シテ曰ク是レ所謂血氣
ノ勇ノミ何ソ身ヲ輕ンシテ賤兵弱卒ノ手ニ死セ

ンヤ忍フヘクシテ之ヲ忍フハ尋常ノ人ハミ忍ブ
可カラスシテ之ヲ忍フハ妾等ハ望ム所ニ非ラス
ヤ忍テ而シテ此ニ死スルモ一步ヲ動ス可カラス
且ツ彼レ妾等カ樓上ニ匿ルヲ知ラス唯來テ風
雨ヲ避クルノミ久シカラシテ必ス去ラント妾
已ムヲ得ス首ヲ俯ジテ士卒ノ去ルヲ遅ツ樓下火
ヲ燎クコハ寛ニ或ハ猛ニ煙燭屢々昇騰シテ
氣息絶エント欲スルモノ數回將軍卒然苦聲ヲ
發シテ嘆息ス樓下ノ一卒忽チ之ヲ聞キ衆ニ告ケ
テ曰ク樓上人アリ今嘆息ノ聲ヲナセリト一卒
曰ク否此レ小鼠ノ響ノミ廐舍何ソ人アルヲ得ン
ト或ハ怪ミ或ハ笑ヒ談論久シク決セス一人曰ク
登テ而シテ之ヲ探ランノミト身ヲ動シテ曰ク階
梯ナシ登ル能ハスト一人曰ク既ニ梯階ナシ人ナ
キ必セリ又何ヲカ怪マント一笑ンテ止ム既ニシ
テ士卒等相語テ曰ク東方漸ク白ク雨聲亦微ナリ
賊徒是レヨリ必ス南方ニ奔リテ頓加羅黨ニ寄ラ
ン然レハ彼レ徒歩ノミ追捕固ヨリ難カラスト行
装ヲ整ヘ歩騎相間リテ出ツ妾等虎口ノ難ヲ脱シ
心少ク定マル然レハ餘燼漠漠トシテ未タ室内
ヲ去ラス乃チ窓ヲ啓テ之ヲ掃ハント欲ス雙手ヲ
支ヘテ半身ヲ起セハ忽チ殘燼ノ薰灼スル所トナ
リ目眩シ魂迷ヒ撲然トシテ臥ス樓下范老ノ聲ア
リ曰ク將軍兩娘ト意ナキヤ敵兵既ニ南方ニ去

レリト妾之ヲ聞キ微聲ヲ發シテ曰ク范老速ニ
窓戶ヲ啓ケ又希クハ一杯ノ水ヲ與ヘヨト范老
水ヲ馬槽ニ盛り登リ來テ妾ニ與ヘ直ニ窓ヲ開
キ巾ヲ振テ煙燼ヲ掃フ妾一喫シテ蘇生ノ思ヲナ
シ手ヲ延ヘテ幽蘭女史ヲ搖カシ又水ヲ進メント
欲ス女史俯臥シテ更ニ應セス諦視スレハ則チ將
軍ト相保持シテ氣息絶エ息已ニ歇ミ僅ニ血脈
ハ微動スルヲ感スルハミ妾范老ト驚愕スル殊
ニ甚ダシ乃チ其口ヲ開キ水ヲ注ギ背ヲ撫シテ呼
フ少焉アリテ二人曰ク開キ精神差定マル女史范
老ヲ顧ミテ曰ク范老去テ後追卒吾至妾以爲ラク
范老路ニ捕ヘラレ妾等カ潛匿亦已ニ露ルト既ニ
シテ其然ラサルヲ知リ又以爲ラク范老未タ縛ニ
就カスト雖モ歸リ來ラハ其禍害眞ニ計ル可カラ
スト戰戰トシテ薄氷ヲ履ムカ如ク兢兢トシテ
深淵ニ臨ムカ如シ之ニ加フルニ煙燼樓上ニ充チ
氣息通スル能ハス妾等カ恐苦亦想フ可シ然レハ
衆皆恙ナキヲ得タリ是レ豈天ニ非ラスヤト范老
曰ク老奴先キニ林下ニ至リ一農家ヲ認メ戸ヲ敲
キ情ヲ述ヘ食ヲ求メテ還ル時ニ雷雨驟ニ至リ
殆ト歩ヲ移ス可カラス因テ暫ク之ヲ樹下ニ避ク
遙ニ人馬ノ聲西方ヨリ至ルヲ聞ク心大ニ之ヲ
訝リ雨ヲ犯シテ遽ニ近ツケハ追卒ノ屋內ニ亂
入スルナリ老奴之ヲ見テ胸ヲ撫シテ曰ク嗚乎已

矣ト短銃ヲ腰間ニ取り直ニ進テ死ヲ決セント欲
ス更ニ近テ壁間ヨリ之ヲ窺ヘハ人跡踴躍徒
ニ火ヲ燎キ濕衣ヲ乾スノミ是ニ於テ神魂始メテ
安シ乃チ屋後ニ匿レテ其去ルヲ待テリト四人
淚ヲ垂レ手ヲ握リ互ニ其事ナキヲ祝シ相攜ヘテ
樓ヲ下ル饑疲既ニ極マリ踉蹌トシテ歩ス能ハス
范老攜フ所ノ麵包ヲ出シ妾等ニ俱ス妾等手指
ヲ以テ分割シ立テ之ヲ喫ハ美大牢ノ如シ漸クニ
シテ氣力少シク加ハリ精神始メテ安シ將軍妾
ト范老トニ謂テ曰ク令嬢ト令兄トノ厚誼ヲ以テ
虎穴ヲ脱シ鱗口ヲ逃レ遂ニ此ニ至ルヲ得タリ若
シ躊躇シテ速ニ去ラサレハ再び危險ニ逢フモ
亦知ル可カラス宜シク勇ヲ鼓シテ國境ヲ超ユヘ
シト三人茅屋ヲ出テ、岐路ヨリ西ニ入ル山漸ク
深ウシテ路益々險ニ峭壁萬重樵路ヲ尋ネ懸崖千
仞鳥道ヲ攀ツ風寂トシテ四ニ飛鳥ノ聲ナク雲淡
クシテ遙ニ孤猿ノ叫フヲ聞ク漸クニシテ一山ノ
絕頂ニ達ス日ヲ放テハ伊武浪河蜿蜒トシテ翠屋
青原ノ間ヲ流ル出沒隱見銀蛇ノ草間ヲ奔ルニ似
タリ一道ノ汽車若露ヲ穿チ黑煙ヲ吐キ北ニ向テ
山脚ヲ過ク蜈蚣ノ身ヲ動シテ孤繩ヲ渡ルカ如シ
將軍足ヲ巖角ニ欲テ指シテ妾等ニ告ケテ曰ク彼
ノ鐵路ハ卽チ北境ニ通スルモノナリ此間僻陋
ニシテ警衛頗ル緩ク又吾輩ヲ疑フ者アル可カ

ラス何ソ下テ而シテ之ニ乗セサルト范老曰ク
吾か心既ニ百里ノ外ニ奔リテ而シテ酸脚僅ニ尺
歩ナル能ハス大鵬ノ翼ヲ假リテ青穹ニ搏タンカ
長房ノ術ヲ借りテ地脈ヲ縮メンカ是レ兩ナカラ
共ニ成ス能ハサルモノ幸ニ今彼ノ鐵路アリ謂フ
將軍ノ言ニ從テ速ニ之ニ乗セント直ニ荊棘ヲ
排シテ峻坂ヲ下リ僅ニ鐵路上ニ出ツ更ニ鐵路
ニ傍テ西ニ行クヲ里餘一停車場アリ裡ニ人テ待
ツコ良ミ久シ眞ニ天ニ跼シ地ニ踏ヘルノ思アリ
夜十點鐘遂ニ汽車ニ搭ス旅館ヲ出テ、ヨリ山
野ヲ跋涉スルコト百里飲食ヲ絶ツコト二日ニ互
リ身疲レ脚痛ミ覺エス熟睡シテ拂曉ニ至ル汽
笛一聲目ヲ開ケバ身ハ已ニ停車場ニ在リ相將
ヘテ車ヲ下ル林腸枴腹歩脚蹣跚トシテ又進ム
能ハス乃チ一酒店ニ入ル或ハ汽車ヲ待つ者或
ハ汽車ヲ下ル者室内ニ充滿シテ殆ト膝ヲ容ル
ルノ地ナシ妾等月邊ニ佇立シテ左右ノ顧盼スル
モノ久シ一老翁アリ狀貌醜惡額上ニ一創痕ヲ印
ス爾將軍ヲ熱視シ其側ニ進ミ揖シテ曰ク弊
廬別ニ小室アリ貴客以テ憩フ可シト誘テ一樓
ニ至ル裝致清麗又一ノ客ナシ少焉ニシテ主翁
自ラ往來シテ酒食ヲ饒ス來ル毎ニ必ス曰ク將
軍ニ注ク妾心ニ之ヲ疑フ主翁去ルニ及テ爾爾
女史將軍ニ謂テ曰ク主翁ノ舉動常ニ異ナリ其

言語亦疑フ可キ者アリ豈偵吏ノ徒ニ非ラサル無
カラシヤト范老色ヲ變シテ曰ク或ハ然ラン若シ
然ラハ則チ計宜シク何如カスヘキト戶外乍チ聲
アリ低ク爾將軍ト呼フ四人忽然トシテ起立シ相
見テ未タ一語ヲ發セス戶外又忙シク語テ曰ク果
シテ然リ果シテ然リト急ニ戸ヲ排シテ入ル主翁
一壯士ヲ伴フナリ范老目ヲ顧シ短銃ヲ舉ケ
テ之ヲ射ル、發セス、妾短銃ヲ執テ主翁ニ擬ス
主翁壯士ト共ニ大ニ驚キ手ヲ揮テ呼テ曰ク誤
ル勿レ誤ル勿レ某等固ヨリ將軍ニ不利ナル
者ニ非ラスト將軍妾ト范老トヲ顧ミ止メテ曰
ク暫ク彼ノ言ヲ所ヲ聞ケト壯士乃チ跪テ
將軍ヲ謁視シ潸潸然淚ヲ流シテ曰ク敬容ヲ拜
セサル茲ニ數年顧フニ將軍既ニ某ヲ記セサル
可シ某ハ伊黎ナリト將軍曰ク然ラハ則チ足下
ハ武羅ノ役賤兒ノ軍ニ在リシ者ニ非ラサヤト伊
黎曰ク然リ回顧スレハ一千八百七十四年將軍
ノ賢息ニ從ヒ共和黨ノ大將魂沙ノ中堅ヲ衝キ
先登第一ノ功ヲ以テ擢ラレテ一軍ノ長ト爲レ
リト將軍曰ク嗚乎彼魂沙年八旬ニ過キ壯勇無
雙叱咤奔馳シテ我軍ニ當ル我軍亦將ニ披靡支ヘ
サラントス時ニ劍ヲ揮ヒ馬ヲ躍ラセ彼ノ陣ニ入
リ遂ニ魂沙ヲシテ鋒鏑ニ殘レシメタル者ハ眞
ニ足下ナリ老眼遂ニ此非常ノ勇士ヲ誤ル實ニ愧

ツハ、堪ヘタリト伊黎曰ク當時某重傷ヲ蒙ム
リ家居シテ病ヲ養ヒ更ニ爲ス所ナク其後嗟嗟
象王位ニ即キ皇兄ノ軍利アラス賢息戰没シ將
軍遠ク遁ルト聞キ憤恨骨髓ニ徹シ慷慨止ム能ハ
サルナリト巾ヲ以テ淚ヲ拭ヒ更ニ主翁ヲ指シ
テ曰ク此レ即チ某ノ老父ナリト主翁言ヲ繼テ
曰ク老奴モ亦皇兄ノ軍ニ從フ者其敗ル、ニ方
テ此創ヲ負ヒ踪ヲ北方ニ匿シ遂ニ豚兒ト共ニ生
計フ此ニ營ムノミ昨者相傳ヘテ謂フ三勇士爾
將軍ヲ山野ニ奪ヒ未タ其踪跡ヲ知ラスト先キ
ニ將軍ノ弊廬ニ臨ムヤ一見シテ以爲ラク容貌
ハ憔悴昔時ニ異ナリ伴フ所亦三士ニ非ラス然レ
モ眉目音吐ハ宛然爾將軍ニ似タリト且ツ疑ヒ且
ツ怪ミ遂ニ獨リ決スル能ハサルヲ以テ豚兒ヲ
招キ私ニ戸隙ヨリ尊容ヲ窺ハシメタリト范老
之ヲ聞キ天ヲ仰テ嘆シテ曰ク嗚乎天ナリ嗚乎天
ナリ我カ銃ヲシテ手ニ隨テ發セシメハ空シク有
爲非常ノ同志者ヲ倒シテ遂ニ身ヲ容ルハノ地ナ
キニ至ラン射テ而シテ發セス擬シテ而シテ射セ
ス幸ニ此禍ナキヲ得タリ豈天ニ非ラサヤト少焉
アリテ伊黎問テ曰ク將軍此ヨリ將ニ何處ニ向
ハントスト將軍力曰ク伊太利ニ航センノミト
伊黎曰ク諺ニ曰ク白龍魚服セバ預且ノ網ニ結ラ
ント今將軍從者甚タ少ク而シテ前路ノ戒嚴故モ

備ハレリ、豈危カラ、スヤ、若カス將軍、檄ヲ傳ヘテ、壯士ヲ募リ、京城ニ向フト揚言シ、旗ヲ返シテ東歸境ニ入ランニ、ハ此地亦皇兄ヲ慕ヒ將軍ヲ欽ム者多シ、某父子不才ナリト雖モ主トシテ之ニ應セハ數百ノ鄉勇半日ヲ出テスシテ召集スルヲ得ン勢颯風ノ沙磧ヲ捲クカ如ク敵ヲシテ疾雷耳ヲ掩フニ還アラサラシメハ志ヲ得ル何ツ難シトセンヤト將軍ノ曰ク余ハ是レ敗軍ノ殘將ノミ豈死ヲ惜ムノ故ヲ以テ有爲ノ壯年ヲシテ身ヲ鋒鏑ノ下ニ委ネ無辜ノ百姓ヲシテ兵馬ノ慘ニ罹ラシムルニ忍ビンヤト主翁カ曰ク獨リ將軍ノ爲メニ謀ルニ非ラス實ニ社稷ノ爲メニ之ヲ謀ルナリ大行ハ細瑾ヲ顧ミス斷シテ而シテ行ヘハ鬼神モ亦之ヲ避ク若シ遲延タラハ再ヒ不虞ノ辱ヲ受ケン即チ吾黨ノ興復遂ニ復タ期ス可カラサルナリト辭氣悲壯眞ニ肺腑中ヨリ出ツ將軍曰ク兵ヲ起スモ敢テ大功ヲ計ルニ非ラス徒ニ輕舉暴動以テ天下ノ譏ヲ招キ後世ノ笑ヲ遺スニ過キス且ツ路ヲ伊武浪河ニ取リ水ヲ渡リテ伊太利ニ入ラハ是レ無人ノ境ヲ過クルナリ更ニ危シトナスニ足ラスト二人其勦カス可カラサルヲ知り妾等ヲシテ皆羸服ヲ着シ農裝ヲナサシメ一輛ノ村車ヲ僞ヒ將軍車中ニ伏サシメ覆フニ響蹕ヲ以テシ伊梨父子左側ニ倚リ妾幽蘭女史ト右側ニ坐シ范老御ト

ナリ酒店ヲ發ス路上卒ニ敢テ怪ム者ナク薄暮奇洲河ニ達ス伊梨父子東西ニ周旋シテ一小舟ヲ僞ヒ急ニ妾等ヲ乗ラシメ手ヲ握テ後會ヲ期シ涕泣シテ別ル

白帆西風ニ孕テ舟行ク矢ノ如シ翌日第十二點始メテ河港ニ泊シ更ニ櫓ヲ轉シテ多島海ニ入ル西國ノ山影髯トシテ漸ク白煙ノ中ニ沒シ伊邦ノ船漂搖トシテ遠ク蒼波ノ上ニ出ツ青螺ノ浮フカ如キモノハ群島ノ横ハルナリ白鶴ノ翔ルカ如キ者ハ布帆ノ走ルナリ奇觀佳景杳杳トシテ船首ヨリ來ル時ニ追躡ノ憂ナク疲勞モ亦始メテ癒エ心思僅ニ間ナルヲ得タリ因テ往ヲ談シ來ヲ計リ悲喜交ミ集マル將軍曰ク余ノ始メテ捕ハルヤ私カニ以テラク事此ニ至ル天ナリ唯タ死ヲ圖堵ニ待タン耳ト而ルニ突然兄ノ阿娘ノ來ル有リ其喜如何ソヤ且ツ夫ノ薔薇花ノ計賞ニ人ノ意表ニ出ツ蓋シ余密ニ蓄ヲ破リ紙片ヲ得文字蠅頭ノ如シ乃チ其言ニ從ヒ飲食ヲ絶チ陽ニ病ト稱シ官ニ請テ郊外ニ逍遙シ今日アルニ至レリ阿娘ノ大恩終生忘ル可カラサルモノト妾カ曰ク此事元令嬢ノ策スル所妾輩唯之ヲ行フニ過キスト女史曰ク偏ニ令嬢ト范老トノ厚誼ニ依ルナリト將軍カ曰ク兩君各々曠世ノ大望ヲ抱キ而シテ余カ爲メニ縮心縋骨一毛願ミル所ナシ天下ノ人誰カ感セ

サル者アラシヤト范老曰ク僕聞ク君子ハ節ヲ奮テ以テ義ヲ顯ハスヲ樂ミ烈士ハ驅ヲ危ウシテ以テ仁ヲ成スヲ甘ニス是以テ雄俊ノ徒義ヲ重シ命ヲ輕シ分ニ感シ身ヲ遺ル故ニ田光ハ劍ニ北燕ニ伏シ公叔ハ命ヲ西秦ニ畢フ果毅輕斷谷風ニ虎歩シ萬乘ヲ威懾シテ華夏雄ヲ稱ス奴輩老矣ト雖モ豈亦志氣ナカラシヤト或ハ慷慨悲憤腕ヲ扼シテ談シ或ハ慨然歎語口ヲ開テ笑フ既ニノ舟伊國ノ華風麗島ニ近ク將軍首ヲ擧ケテ港灣ヲ望ミ大ニ驚テ曰ク吾已矣ト言了リ惘然タルモノ久シ妾等怪テ其故ヲ問フ將軍曰ク何ゾ夫ノ橋頭ノ旗幟ヲ見サルヤト又遙ニ市街ヲ指シテ曰ク見ル所皆半旗ノ凶禮ヲ表スルナリ豈峨馬治ノ死ニ非ラサル無キヤ知ランヤト急ニ舟ヲ進メテ岸ニ上リ之ヲ路人ニ叩ケハ果シテ峨馬治ノ死スルナリ

峨馬治ハ伊太利ノ人一千八百七七年内須島貧家ニ生ル幼ヨリ卓落不羈好テ兵ヲ談シ劍ヲ説ク長スルニ及ヒ航海ノ術ヲ講シ四方ニ周遊シ五洲ノ形勢ヲ觀察シ大ニ悟ル所アリ伊ノ名士焉說難諸士ト訂交シテヨリ深ク當時歐洲專橫ノ暴政ヲ惡ミ自由ヲ擴張セサル可カラサルヲ覺リ先ツ法王ノ世權ヲ革ム澳洲ノ壓制干涉ヲ斷チ伊太利ヲ一統スルヲ以テ終世ノ事業ト

ナ。善能ノ民自由ノ兵ヲ擧クルニ方リ奮テ
其軍ニ加ハリ事破レテ國ヲ去ル後ニ歲ヲ經テ
復タ前國ヲ繼クヲ謀リ捕ヘラレテ將ニ死刑ニ
處セラレントス獄ヲ越エ遁レテ佛國ニ奔ル
千八百三十六年南米ニ航ス明年宇流恩威國
ニ亂起ル峨馬治策ヲ杖キ之ニ赴キ共和ノ政
ヲ助ケ擧ケラレテ海陸ノ將トナリ内亂平定ノ
功ヲ建ツ一千八百四十八年伊太利ニ歸ル是
ヨリ先キ伊太利頻ニ澳太利ノ凌轢スル所トナ
リ邦城日ニ縮マル峨馬治之ヲ見テ慷慨自ラ
禁スル能ハス即チ手兵ヲ率キテ澳軍ヲ伐ツ
遂ニ敗レテ軍門ニ降ル明年伊太利ノ民羅馬
人ト謀ヲ通シ紛然蠢動竿ヲ掲ケテ黨ヒ起リ皆
君ヲ逐ヒ自主スルヲ以テ辭ト爲シ邦内洶洶タ
リ峨馬治默然袂ヲ揮テ日ク時再ヒ來ラス機失
フ可カラスト直ニ羅馬ニ入り義勇兵ニ將トシ
テ數ニ佛澳ノ兵ヲ破リ法王ヲ逐ヒ城ニ據テ堅
守ス時ニ那不流人僱兵ト勢ヲ合シ來リ攻ム峨
馬治自ラ矢石ノ間ニ馳驅シテ戰フ下前後三十
日衆寡敵セス孤城重圍ニ陥リ其守ル能ハサル
ヲ知り衆ヲ勸メ降ヲ議シ獨リ貞節勇敢ノ姿ヲ
攜ヘ閣ヲ衝キ漁船ニ乗シ將ニ他邦ニ逃レント
ス澳ノ海軍之ヲ覺リ追躡甚タ急ナリ乃チ舟ヲ
捨テ陸ニ上リ谷ニ潛ミ山ヲ趨エ眠食共ニ廢ス

ルモノ數日而シテ敵ノ追探愈ミ益ミ嚴ナリ其
妻飢饉困憊寸歩シテ可カラサルニ至リ拘シテ流
水ヲ飲ミ峨馬治ニ語テ曰ク妾今國家人民ノ爲
メニ生命ヲ犧牲ニ供ス死シテ亦恨ナシ唯丈夫
ノ成功ヲ見サルヲ憾ムノミ丈夫宜シク屈セス
撓マス書雲ヲ後日ニ期シ英名ヲ千歳ニ留ム可
シト笑テ峨馬治ノ手ヲ枕シ泣焉トシテ死ス眞
ニ峨馬治ノ妻タルニ愧チスト謂フヘシ峨馬治
其後免レテ再ヒ南米ニ航ス一千八百五十六
年左流滿亞佛國ト連合シテ澳國ト戰フニ及テ
峨馬治歸テ義勇兵ヲ募リ自ラ其先鋒トナリ
屢々奇功ヲ奏シ其一郡ヲ割テ吾カ版圖トナス
當時那不流王暴戻至ラサルナシ獅子利ノ人之
ヲ怒リ相與ニ叛ヲ謀ル善能利ノ民亦之ニ應ジ
將ニ兵ヲ擧ケントス乃チ峨馬治ヲ推シテ元帥
トナス峨馬治其兵ヲ將キテ獅子利ニ渡リ伊太
利一統ノ機ヲ傳フ遠近響應來テ幕下ニ屬スル
者極メテ多シ向フ所敵ナク勢破竹ノ如ク諸城
皆下リ四鄰震懾ス勢ニ乘シテ直ニ那不流ニ侵
入ス府民守兵ヲ逐ヒ歡然逢迎自由萬歲ヲ唱ヘ
峨馬治ヲ仰テ以テ救生ノ魁首自由ノ泰斗ト稱
シ奉シテ以テ三軍ノ叛首トナス偶々左流滿亞
王威馬寧流立テ伊太利王ト爲ル峨馬治因テ兵
權ヲ解キ自ラ卒伍ニ歸ス實ニ一千八百六十

年ナリ是ニ於テ伊太利遂ニ諸州ヲ兼併シ一統
ヲ爲スヲ得王其功ヲ賞シ授クルニ大將ノ印綬
ヲ以テス峨馬治之ヲ辭シ飄然海島ニ歸ル伊太
利既ニ境内ヲ一統スト雖モ佛澳ノ橫恣猶ホ昔
日ニ異ナラス峨馬治之ヲ見テ悲憤ノ情禁スル
能ハス一千八百六十二年書ヲ政府ニ呈シ澳國
ト絶タンコト勸ム報セス峨馬治之ヲ怒リ一千
八百六十六年義勇兵ヲ募リ將ニ羅馬ヲ襲ヒ佛
ノ戍兵ヲ追ハントス政府大ニ驚キ兵ヲ遣テ之
ヲ止ム肯セス因テ大ニ返寇ス峨馬治重傷ヲ被
リ擒セラル明年再ヒ義勇兵ヲ集メ事未タ成ラ
スシテ華風麗島ニ幽セラル既ニシテ又脫シテ
羅馬ニ入り國民ヲ驅テ法王ノ兵ヲ破ル佛ノ援
軍來リ乘スルニ會シ軍敗レテ又生擒セラル
會ニ哀ヲ請フ者有リ赦サレテ海島ニ歸ルヲ得
タリ一千八百七十年普佛兩ヲ構ヘ佛軍連敗
振ハサルヲ聞キ慨然兵ヲ募リ佛國ニ赴キ將ニ
一木ヲ以テ大厦ノ傾クヲ支ヘントス和成ルノ
後佛人高位ヲ以テ待タントス峨馬治笑テ曰ク
難ヲ助ケ賞ヲ望ムハ志士ノ恥ル所ナリト兵權
ヲ解テ故國ニ還隱ス蓋シ峨馬治ハ魯仲連ノ徒
ナリ人ノ爲メニ艱難ニ赴キ世ノ爲メニ禍害ヲ
排シ強ヲ挫キ弱ヲ助ケ高位重爵之ヲ見ルコト敢
履モ當ナラス而シテ自ラ奉スル極メテ薄ク褐



(畫插本厚)

國 之 大 義 也

巾、敵衣、士卒、食ヲ同ウシ、七擒、大志ヲ變セ、百折、素意ヲ屈セ、終始伊太利全國ヲ一統シ、地ニ臨チタルノ國威ヲ恢復シ、以テ歐洲ノ雄邦ト連鑣、馳騁セシムルヲ以テ己カ任ト爲ス、其兵ヲ擧クル、毎ニ曰ク、事成ラハ王ニ歸シ成ラスンハ自ラ其罪ニ當ランノミト、其能ク全土ヲ一統シ、王ノ世權ヲ革メ、強國ノ間ニ競立セシメタルモ、ハハ蓋シ、峨馬治ノ力多キニ居ル、峨馬治ノ一舉一動ハ、歐米君相ノ注目スル所、一言一行ハ、歐米自由ノ消長ニ關スルニ至ル、豈曠世ノ豪傑ナラ

○。スヤ
將軍茫然自失スルモノ久シ、既ニシテ曰ク、余、少ヨリ、諸國ニ遊ヒ、國ノ人傑ニ於テ交サル者殆ト稀ナリ、而今ノ世ノ以テ雄俊英傑トナス所ノ者ハ、詭辯ノ徒ニ非ラサレハ、權謀詐術ノ輩ニ過キス、義ニ勇ニシテ道ヲ好ミ、盛衰ヲ以テ節ヲ改メ、存亡ヲ以テ志ヲ易ヘサル者ハ、未タ曾テ之レ有ラサルナリ、天下ノ廣キ人物ノ多キ、伊ノ峨馬治佛ノ嚴、龍之、庶幾トナス故ニ、余常ニ曰ク、俱ニ志ヲ談シ、事ヲ計ルニ足ル者ハ、獨リ此二子アルハミト、而シテ、今ヤ峨馬治則チ亡矣、豈悲シカラスヤ、腹殘、伏ノ者、固ヨリ葬儀ニ會ス可カラス、既ニ事ヲ計ル能ハス、亦喪ニ會スルヲ得ス、永ク此地ニ留マルモ、亦何ヲカ成サン、若カス速ニ佛國ニ赴キ、嚴龍、見テ而シテ去就ヲ決センニハト、乃チ一逆旅ニ投シ、一日ヲ經テ汽船ニ乗シ、更ニ佛國向フト語リリテ、紅蓮、徐ニ首ヲ低レ、沈思スル所アルカ、如ク愁慮スル所アルカ、如ク又敢テ言ハス、散士曰ク、令娘胡爲レシ、其後ノ狀ヲ語ラサルト、紅蓮曰ク、是ヨリ死別ノ一話ナリト、散士曰ク、速ニ語レ、速ニ語レ、語リ畢ラサレバ、令娘カ悲哀ノ情、永ク開ク、ナシ、聞キ畢ラサレバ、僕カ悼情ノ懷、遂ニ安スル、ト能ハス、ト紫蓮、淚ヲ揮ヒ、聲ヲ吞ミ、漸ク首ヲ擡ケテ曰ク、然ラハ、則チ是ヨリ將ニ幽將軍父子及范老死、沒ノ

狀ヲ語ラン
此日俱ニ一室ニ在リ、四人端ナク、快決トシテ、樂マシ、憂愁自ラ色ニ形ハレ、談少ク、語短シ、妾、幽蘭、女史ヲ促シ、甲板ヲ歩ス、女史曰ク、初メ、龍、然、出、拔、カノ概アリ、今ヤ、勇心、摧折、志力、衰、鬱鬱ノ情ニ堪ヘサルナリト、妾曰ク、妾モ亦令、懨ニ、異ナラス、思フ、所有ルニ、非ラス、シテ、更ニ、思フ、所、有ルモノ、如シ、自ラ、其ノ何ノ故タルヲ、知ル能ハス、天、霽、氣、朗、光、景、極メテ、佳ナリ、眺、矚シテ、以テ、神ヲ、慰メンノミト、既ニシテ、膚寸ノ雲、颯、颯ノ風ニ、從ヒ、江山ノ巔ニ、起リ、蓬蓬トシテ、疊、嶂ノ狀ヲ、ナス、風、威、漸ク、加ハリ、疏雨、從テ、至ル、天、暗ウシテ、疾、雷、近ク、震ヒ、海、潮、逆、流、飛、沫、空ニ、散ス、妾等、大ニ、驚キ、倒シ、テ、僅ニ、室內ニ、入ル、怒、濤、益ニ、洶、湧、暴、風、愈ニ、驟、颯、忽チ、ニシテ、軸、九、天ニ、上ル、カ、如ク、忽チ、ニシテ、鐘、九、泉ニ、入ル、カ、如ク、左、立、右、臥、轉、輾、反、側、船、體ノ、顛、覆、眞ニ、計ル、可カラ、ス、乘、客、困、沛、或ハ、柱、極ヲ、抱ク、アリ、猿、猿ノ、木ニ、倚ル、カ、如ク、或ハ、力、衰ヘテ、床ニ、轉スル、アリ、丸、子ノ、板、上ヲ、走ルニ、似タリ、既ニシテ、激、浪、破、窓ヲ、破リ、流、沫、浚、浚トシテ、船、中ニ、入ル、時ニ、器、物、破、碎ノ、聲、船、夫、號、叫ノ、聲、悽、悽、慘、慘、聞クニ、堪ヘサ、ラ、シム、實ニ、飛、豪、カ、十、九、世、史ノ、名、モ、及フ、能ハサルノ、狀、アリ、未、タ、久シ、カ、ラ、ス、大、聲、疾、呼スル者、アリ、曰ク、船

カ欲スル所ヲ行ウテ功業ヲ不朽ニ垂レント欲ス
ルモ亦難矣哉ト更ニ妄ニ告ケテ曰ク傲邦英國ト
交ル甚タ久シ故ニ民情國俗互ニ相熟悉ス而
シテ余最も愛蘭人ヲ愛ス蓋シ愛人輕舉暴動ノ跡
跡カラスト雖モ蹶ケハ輒チ愈々奮ヒ倒レハ輒
チ益々興リ屯蹙坎壈ノ間ニ處シテ常ニ晏如タリ
其政爲ノ氣象萬國或ハ及フ者アルナシ固島心ヲ
一ニシ力ヲ戮セテ米佛人民ノ輿論ヲ借リ以テ英
國ノ隙ニ乗セハ獨立ノ權ヲ復シテ自治ノ政ヲ施
シ窮厄ヲ水火ノ中ニ救フヲ願フニ當ニ遠キニ非
ラサルヘシト意氣激昂音吐鏗々如シ聞キ畢リテ
語言猶ホ耳朶ニ鏗爾タリト散士曰ク聞ク嚴公
卓識深遠近者大ニ意ヲ南洋ノ形勢ニ注クト我カ
日本ノ事ニ就テ論議スル所有リヤ否紅蓮曰ク
貴國ノ事論スル所無キニ非ラスト依違トシテ謂
フ能ハサルモノ、如シ散士曰ク希クハ我カ爲
メニ之ヲ語レト紅蓮猶ホ未タ言ハス散士頻々之
ヲ叩ク紅蓮乃チ曰ク郎君請フ恕セヨ妾且ツ其實
ヲ告ケン安嚴公ニ問テ曰ク頃日傳フル者有リ曰
ク近來日本大ニ開ケ漸ク千古ノ宿弊ヲ蟬脫シ
自由ノ域ニ擴張セサル可カラサルヲ覺リ民心振興
到處自自主自由ノ論ヲ唱道セサルハナシ閣下
之ヲ聞キ深ク其義ニ感シ海ニシテ東、扶桑ニ
赴キ自由ノ爲メニ之カ聲援ヲ爲ント欲スト是レ

妾カ大ニ觀スル所ナリ貴邦ノ人義氣ヲ重ンシ敢
爲ニ勇ミ往年米國ノ義舉ヲ贊襄シ近日傲邦ノ獨
立ヲ獎勵シ今日亦此舉アリ日本是レヨリ歐人ノ
羈絆ヲ脱シテ不正ノ義ヲ抑壓ヲ免レ治外法權ヲ
廢シ國民漸ク自由ノ晴日ヲ拜スルヲ得ヘシ妾佛
國ノ高義閣下ノ此舉ト共ニ五洲ニ發揚センヲ
知ルト語未ダ了ラス嚴公眼ヲ瞑シ一喝シテ曰ク
咄是レ齊東野人ノ言ノミ先キニ吾國普國ト戰ヒ
拿破倫三世師丹ニ敗レ身降虜ト爲リ巴黎亦圍ヲ
愛ケ國家ノ滅亡且タニ迫レリ是時ニ當リ吾輩主
戰ヲ唱ヘ民心ヲ一ニシ肉ヲ碎キ骨ヲ斷キ以テ國
辱ヲ雪カント欲ス乃チ單身氣球ニ乘シ重圍ヲ脱
シテ浪華河上ニ至リ兵ヲ招キ勇ヲ募リ勵マスニ
國家克復ノ大義ヲ以テシ將ニ進テ新勝ノ普軍ヲ
破リ阿連郡城ヲ復シ茂士ノ軍ト相應シ三軍合擊
長驅ノ客兵ヲ堅城ノ下ニ塞ニシ遂ニ進テ彼ノ都
城ヲ屠リ吾カ社稷ヲ磐石ノ牢ニ置キ以テ威名ヲ
萬世ニ傳ヘントス而ルニ巴彥輩怯懦爲ス無ク首
鼠兩端身ヲ愛ミ國ヲ賣リ十五萬ノ雄卒ヲ率キテ
甘シテ虜トナリ我カ民ヲシテ勇氣挫折命ヲ惜
ムノ鬼胎ヲ生シテ義ヲ重ンスルノ丹心ヲ失ヒ曉
曉トシテ和議ヲ唱ヘ地ヲ割テ城下ノ盟ヲナシ遂
ニ三老雄ノ名ヲサシメ以テ普國ヲシテ雄ヲ歐
洲ニ逞ウスルニ至ラシム遺憾何ゾ堪ヘント四隅

ヲ睨ミ手ヲ舉ケテ案ヲ拍チ又語ヲ繼テ曰ク是レ
余カ日夜靡テ運ヒ膽ヲ嘗メ忘ル、能ハサル所ナ
リ然リ而シテ今ヤ内ニ王政黨ノ故主ヲ思ウテ共
和ノ政ヲ惡ムアリ社會黨ノ虛無黨ト相結ヒテ過
激ノ改革ヲ斷行セント欲トスルアリ外ニハ普
希義陰ニ澳伊西ノ三國ト連衡シ我カ靈障ヲ窺
ヒ馬島埃及安南ノ三國亦我カ制ニ抗セントス
實ニ國家多事ノ秋ナリ余不肖ト雖モ身此大任ヲ
負フ何ノ暇アリテカ一貧弱ノ小邦ニ趣キ無用ノ
光陰ヲ費サンヤ然レモ日本人ニシテ上下心ヲ一
ニシ眞ニ國權ヲ振ハサルヲ慨シ眞ニ外人ノ專橫
ヲ憤リ昔時米國ノ義舉ノ如ク聖土奴民歟ノ獨立
ノ如ク
聖土奴民歟ハ西印度中ノ一島ニシテ佛國殖
民地ノ一ナリ一千八百一一年第一世拿破倫奴
隸實施ノ令此島ニ布ク萬民其暴戾殘虐ヲ
憤リ所在蜂起シ名將東山黨老亞智勇ヲ推
シテ盟主トナシ血ヲ啜リ天ヲ仰キ相共ニ誓テ
曰ク死シテ自由ノ鬼トナルモ生テ奴隸ノ民タ
ラスト遂ニ兵ヲ舉ケテ叛ス老亞智勇ハ亞非利
加賣奴ノ子ナリ一千七百四十三年此島ニ生
ル佛國革命ノ亂起リ共和ノ政ヲ立ツルニ及
テ全島ニ令シテ奴隸ヲ解放シ自主ノ權ヲ與ヘ
人人ラシシ其業ニ就クコトヲ得セシム既ニシテ

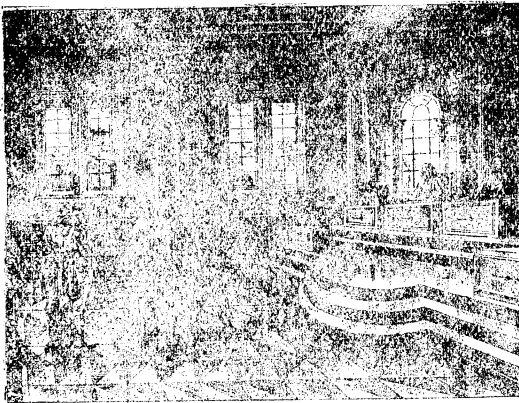
英人佛國ノ内亂アルヲ見テ隙ニ乗ジテ此島ヲ奪ヒ以テ其有ニ歸セシメント欲ス即チ大兵ヲ遣シテ來リ圍ミ甘言之ヲ誘ヒ兵威之ヲ脅シ殆ト其半ヲ略ス時ニ老亞智勇佛ノ提督勵武禮ノ麾下ニ屬シ屢ニ英軍ト戰ヒ奇功ヲ建テ果遷シテ一面ノ將トナル會ニ部下ノ將士竊ニ開テ英軍ニ通スルモソアリ提督ヲ賣テ其軍ニ降ル是ニ於テ島ヲ守ルノ兵狼狽爲ス所ヲ知ラス皆將ニ干戈ヲ棄テ、轍門ニ降ラントス老亞智勇外ニ在リ之ヲ聞キテ大ニ驚キ星馳歸リ來リ大ニ士卒ヲ奮勵シテ英軍ヲ一戰ノ下ニ破リ提督ヲ奪還シ士卒ヲ振作シ以テ狂瀾ヲ既ニ覆ヘルニ回セリ乃チ尊ケラレテ大元帥トナル老亞智勇奮然トシテ全島ヲ克復スルヲ以テ已カ任トナシ士卒ト甘酸ヲ同ウシ頻ニ英軍ヲ破リ急進シテ英將迷途亂土ヲ圍ミ其全軍ヲ擒ニシ一島盡ク定マル島民其功ヲ推尊シ奉シテ以テ首領トナシ悉ク島政ヲ攝セシム然レモ老亞智勇人ト爲リ謙退遜讓敢テ其功ニ伐ラス自ラ奉スルヲ素朴ニシテ最モ華侈ヲ惡ミ漫ニ新ヲ逐ウテ舊ヲ改ムルヲ爲サス民情ヲ量リテ政ヲ施シ法ヲ執ルコト公ニ事ヲ斷スルコト敏ナリ是ニ於テ民其德ニ感シ人其智ニ服シ之ヲ敬スルヲ父ノ如ク之ヲ慕フ丁母ノ如シ商工ノ

道隨テ振起シ島民漸ク富ム一千八百零四年安眠ノ和議成リ歐洲ノ平和或ハ得テ而シテ望ム可シ會ニ拿破倫奴隸再施ノ救ヲ此島ニ下ス老亞智勇救ヲ奉セス即チ上書シテ諫メテ曰ク

天下ノ人貴族僧侶ノ暴政ニ苦ム久シ陛下三尺ノ劍ヲ提ケ自由ノ眞理ニ基キ内ニ明法ノ政ヲ建テ以テ我カ民ヲ無政亂離ノ中ニ救ヒ外ニ專横ノ君ヲ廢シ以テ彼民倒懸ノ難ヲ解キ南征スレハ北方怨ミ東伐スレハ西方恨ミ四海欽仰陛下ヲ以テ自由ノ眞主ト爲ス今干戈僅ニ定マリ瘡痍未ダ癒エス敵國猶ホ隙ヲ窺フモノアリ是時ニ當リ宜シク人心ヲ收メ民望ニ協フヲ以テ粉トナスヘシ乃チ陛下何ヲ苦テ人間最上ノ惡德ナル奴隸賣買ノ制度ヲ再施セント欲スルカ大レ奴隸賣買ノ無道殘虐ナル陛下ノ既ニ知悉スル所天下ノ共ニ厭惡スル所固ヨリ微臣力喋喋ヲ待タス而シテ今陛下強テ之ヲ施サント欲ス臣恐ラクハ天下後世ノ誹謗ヲ免ル能ハサランコトヲ盛德ノ累焉ヨリ大ナルハナシ豈惜シカラスヤ我全島ノ人民先キニ政府ノ恩命ニ依リ初メテ奴隸ノ苦厄ヲ脱シ自主ノ天日ヲ拜シ自由ノ眞味ヲ嘗ムルヲ得タリ今又舊ノ讐禽獸ノ群ニ入り牛馬ト伍スルヲ肯ス可ケン

ヤ陛下若シ強テ天心ニ逆ヒ人心ヲ顧ミス此惡德ヲ斷行セント欲セハ微臣死ストモ救命ヲ奉スル能ハス微臣餘命幾モナシ特ニ一身ノ爲メニ計ルニ非ラス國ヲ憂ヘ民ヲ思フノ情默シテ而シテ止ム能ハス忠言耳ニ逆ヒ良藥口ニ苦シ敢テ天威ヲ冒觸ス罪固ヨリ萬死ニ當ル伏シテ斧鉞ヲ待ツ

拿破倫之ヲ見テ大ニ怒リ罵テ曰ク咄嗟子何ゾ鏡舌ナルト義弟區令員ニ授クルニ精兵三萬五千戰艦五十四隻ヲ以テシ一擊シテ聖土奴民嗷ヲ屠ラント欲ス老亞智勇之ヲ聞キ大ニ戰備ヲ修メ勵マスニ自由ノ正義ヲ以テシ激スルニ奴隸ノ殘虐ヲ以テス全島ノ民二萬ニ滿タス皆感奮振起勇氣百倍骨ヲ積テ疊トナシ血ヲ流シテ濠トナシ全島ヲ舉ゲテ赤土ニ歸シ而シテ後已マント欲ス老亞智勇固ヨリ善ク兵ヲ使フ機ニ臨ミ變ニ應シ拒戰果日拿破倫親任ノ名將精兵三萬五千戰艦五十餘隻ヲ率キ而シテ父且ツ如何トスルヲ能ハス會ニ佛ノ軍中疫ヲ病ム者多シ佛將其爲ス可カラサルヲ知り使テ遣シテ老亞智勇ニ説テ曰ク公忠勇深ク士卒ノ心ヲ得テ百戰盡ク其功ヲ奏セリ然レモ孤島ノ衆以テ天下ノ雄ニ抗シ難シ若カス和ヲ講シ萬事舊約ヲ改メス若生ヲ干戈ハ中ニ救ハンニハト



(畫插本原)

圖此之附論・是法身智老

老亞智勇大ニ喜テ曰ク是レ臣カ志ナリ
臣豈好テ干戈ヲ弄シ功名ヲ貪ル者ナランヤト
將ニ日ヲ期シテ佛將ト會シ和ヲ議セントス
佛人預メ兵ヲ圍幕ノ中ニ伏セ急ニ起テ老亞
智勇ヲ捕ヘ縛スルニ鐵鎖ヲ以テシ直ニ佛京
ニ送リ獄舍ニ幽シ論スルニ大逆無道ヲ以テス
老亞智勇其不法ヲ怒リ法庭ニ論辯シテ曰ク臣
ハ陛下ニ於ケル固ヨリ私怨アルニ非ラス又私
利ヲ營ミ私慾ヲ逞ウセント欲スルニ非ラス其
干戈ヲ交ヘシ所以ハモノハ人生ノ權利國家ノ

大計ニ在リ蓋シ陛下ハ奴隸ノ惡法ヲ再施シテ
人民ヲ牛馬使セント欲シ臣ハ奴隸ノ惡德ヲ棄
テ、人生ノ大義ヲ伸ヘント欲ス其是非曲直
然トシテ火ヲ觀ルカ如シ今之ヲ口舌ノ間ニ爭
ハスト雖モ天固ヨリ靈アリ當ニ臣カ誠意ヲ知
ルヘシ人固ヨリ心アリ當ニ臣カ孤忠ヲ憫ムヘ
シ而シテ陛下獨リ其理否ヲ窮メス其曲直ヲ問
ハス悍然兵馬ヲ以テ其志ヲ達セント欲ス暴モ
亦甚タシト謂フ可シ事已ニ此ニ至ル唯唯トシ
テ其爲ス所ニ從フハ男兒ノ忍フ能ハサル所ニ
シテ干戈ハ又戰國ノ常事固ヨリ怪ムニ足ラサ
ルナリ臣元ト奴隸ノ子ナリ唯タ衆ノ爲メニ推
サレテ謀主トナリ僅ニ黑人數千ヲ驅リ以テ守
備ノ計ヲナスノミ陛下ノ軍、勇猛無比歐ノ雄
邦ヲ蹂躪シテ向フ所敵ナシ固ヨリ是レ乘勝ノ
大兵臣カ孤軍ノ能ク抗スル所ニアラス然リ而
シテ攻守累月勝敗遂ニ決セス豈兵ノ多寡力ノ
強弱ニ關セサル所以ノ者アルカ陛下下果シテ勇
アラハ蓋ソ更ニ親ラ大軍ヲ引率シ正正ノ陣、
堂堂ノ旗、勝敗ノ境上ニ決セサル陛下又義ヲ
好ミ勇ヲ愛セハ蓋ソ臣カ言ヲ容レ臣カ行ヲ嘉
セサル是レ蓋シ陛下ノ陛下タル所以ナリ何ソ
料ラン正論服スルコト能ハス兵艦勝ツコト能ハス
誘フニ和議ヲ以テシ捕縛シテ萬里ノ外ニ送ル

姦猾ノ策怯懦ノ謀世ノ之ヲ聞ク者誰カ陛下ヲ
笑ハサランヤ又誰カ陛下ヲ惡マサランヤ是レ
丈夫ノ爲スコキ所ニアラス抑々曠世ノ英雄拿
破倫皇帝陛下ノ爲スコキ所ニ非ラサルナリ聞
ク天網恢恢疎ニシテ漏サス爾ニ出ツル者ハ爾
ニ反ルト陛下モ亦他日必ス楚囚ノ辱ヲ愛ケ他
鄉萬里ノ外ニ客死ス可シ臣死スルノ後碌碌猶
ホ故山ヲ護リ我カ人民ヲ鼓舞シ佛國ノ羈絆ヲ
脱シ必ス獨立自主ノ國タラシメン陛下幽囚ノ
日異鄉ニ在リテ之ヲ聞ケト日光炬ノ如ク聲
晋雷ノ如シ滿堂ノ人震慄セサルハナシ法官
復タ之ヲ論辯スルコト能ハス唯タ曰ク大逆無道
ナリ大逆無道ナリト再ヒ獄中ニ投シ十月ノ
間、人ニ接シ天日ヲ見ルヲ得サラシム老亞智
勇憂憤病ヲ爲シ天ヲ仰テ痛歎シテ曰ク嗚乎
天道是カ非カ復タ我カ孤忠ヲ伸フル所ナシト
一叫地ニ僵レテ而シテ絶ス四海ノ志士皆老亞
智勇ノ義勇ヲ感シ拿破倫一世ヲ思慕セサルナ
シ後未タ幾ナラスシテ拿破倫一世遺島ニ謫セ
ラレ聖土奴民嗷兵ヲ舉ケテ獨立ス一ニ老亞智
勇カ言ノ如シ
愛人カ英政ニ敵スル如ク百折撓マシ千挫屈セス
志氣愈々振ヒ民心益々固クシハ余亦其孤忠ニ感
シ一臂ノ勞ヲ盡ス可シ然レ未タ全國人民條約

改正ノ成ラサルヲ憤リ慷慨激昂自ラ政府ニ迫リ
之ヲ論スル者アルヲ聞カサルナリ苛税ヲ課シ船
租ヲ布キ以テ軍艦ヲ購ヒ兵備ヲ装フモ只内亂ヲ
鎮壓スルニ汲汲タル耳未ダ海岸ニ砲臺ヲ増シ外
寇ヲ防禦セント欲スルヲ聞カサルナリ故ナク外
事ニ干渉シ隣交ヲ傷リ人ヲシテ弱邦ヲ蔑視スル
ノ志アルヲ疑ハシムルモ未ダ曾テ上下一致全力
ヲ國權恢復ニ盡シ若シ歐人ニシテ日本ノ正理ヲ
承諾セシムハ斷然獨立國ノ體面ヲ保持セント欲
スルノ決意アルヲ聞カサルナリ在野ノ名士奮然
臂ヲ揮テ歐米ニ航シ條約ノ偏重ヲ各國ノ君相ニ
訴フル者アルヲ聞カサルナリ志士論客カ此士ニ
來リ筆ヲ擲リテ書ヲ新聞ニ投シ舌ヲ掉ウテ公衆
ニ演說シ以テ輿論ヲ傾動スルモノアルヲ聞カサ
ルナリ全國ノ民、オチ擇ビ能ヲ選ミ使ヲ遣シテ
書ヲ各國ノ議院ニ奉ケ以テ條約ノ改正ヲ請求ス
ル者アルヲ聞カサルナリ國家獨立ノ實力ヲ傷ケ
自治ノ大權ヲ失ヒ外人ノ鼻息ヲ窺ヒ他邦ノ虛囑
ヲ恐レ三千餘萬ノ衆上下怏然トシテ愧ツル所ヲ
知ラス内結外竊ノ大計ヲ遺レ互ニ相語テ曰ク自
由ノ爲メニ斃レンノミ國權ヲ擴張セザレハ死モ
且ツ已マスト之ヲ小蛙ノ井底ニ躍ルニ譬フ世或
ハ日本男兒ヲ稱スルモノアリト雖モ是レ皮相ノ
ミ未タ其肺腑ヲ知ラサルノミ今日ノ務更ニ焉ヨ

リ大ナル者アリ區區小島ノ是非曲直豈乃公力心
頭ヲ累スニ足ランヤト散士聞ク毎ニ冷汗背ヲ
沾シ首ヲ低レテ大息ス紅蓮曰ク妾嚴公カ貴邦人
民ヲ責ムルノ甚ダ酷ナルヲ聞キ一言之ヲ聞カン
ト欲ス偶ニ他客ノ來ル者アルヲ以テ果サシテ
歸リ蓋シ妾カ言フ所ハ偏ナク黨ナシ郎君其冒瀆
ヲ尤ムル勿レ散士曰ク嚴公ノ論整々トシテ皆肯
緊ニ中ル眞ニ我邦人頂門ノ一鍼ナリ令嬢カ諱マ
ス文ラス語ルニ其實ヲ以テス僕豈服膺セザラン
ヤ

紅蓮更ニ語ヲ轉シテ曰ク妾既ニ友ヲ失ヒ獨リ異
郷ニ漂零シ寂寞無聊ノ感ニ堪ヘス茫然自失スル
モノ久シ時ニ鄰房談話ノ聲アリ頻ニ戲曲ヲ評シ
テ曰ク伊太利ノ名妓技ヲ教フニ演ス姿體輕妙音
聲流麗眞ニ古來希ニ見ル所ナリト妾之ヲ聞キ
以爲ラク教坊ニ赴キ憂悶ヲ排スルニ若カスト逆
旅ノ小娘ヲ攜ヘ行テ演劇ヲ觀ル嬌啼啾啾黃鳥ノ
春花ニ轉スルカ如ク雅韻輕清金鳳ノ慶雲ニ歌フ
ニ似タリ腰ハ細柳ヲ裝ヒ裾ハ流霞ヲ曳ク蹣跚ト
シテ體飛燕ヲ擬シ曲折シテ形回鸞ヲ學フ妾之ヲ
聞キ之ヲ見テ大ニ樂ム小娘妾カ袖ヲ牽キ耳語
シテ曰ク請フ南樓ノ前面ヲ見ヨ豈誰偉ノ丈夫
ニ非ラスヤト妾首ヲ舉ケテ一望スレハ何ソ計ラ
ン宛然守城長王羅ニ似タリ大ニ驚キ殆ト爲ス

所ヲ知ラス胸ヲ撫シ心思ヲ安ジ小娘ニ問テ曰ク
丰采溫雅衣裝都麗眞ニ可憐風流ノ人唯ハ恨ム
何ノ處ノ高士ナルヲ知ル能ハサルヲト小娘笑
テ曰ク是レ西班牙ノ人吾樓ニ宿シテ令嬢ノ上
房ニ在ル者ナリト妾愈々其王羅ナルヲ知リ且
ツ愕キ且ツ恐レ少焉モ安スルヲ能ハス幸ニ妾
梨羅面ヲ覆フヲ以テ彼レ達ニ妾タルヲ知ラサル
カ如シ乃チ技未ダ畢ラサルニ急ニ病ヲ稱シテ歸
ル夜既ニ半ヲ過キ又如何ス可キナク千思萬慮眠
ラスシテ天明ニ達ス小娘來リ見テ曰ク令嬢顔
色憔悴晝夜來ノ病痼ニ非ラスヤト妾カ曰ク否
以テ念トナス勿レト更ニ膝ヲ進メ問テ曰ク昨夜
ノ高士ハ今猶ホ樓上ニ在リヤ妾一タヒ相見テヨ
リ又忘ル、能ハス詳ニ其人トナリヲ知ラント
欲ス希クハ妾カ爲メニ之ヲ語レト小娘曰ク
兒ハ唯西班牙ノ人ナルヲ知ルノミト妾數金ヲ取
リ與ヘテ曰ク好娘子妾カ微意ヲ憐マハ幸ニ
之ヲ探レト小娘嫣然トシテ笑テ曰ク諸請フ暫
ク之ヲ待テト既ニシテ復タ來リ告ケテ曰ク妾之
ヲ阿爺ニ聞ク曰ク彼ハ西班牙ノ守城長ナリ先
キニ頗加羅黨ノ名將獄ヲ越エテ遁レ未ダ踪跡
ヲ詳ニセス人或ハ疑フ必ス佛國ニ潛入シテ計
ル所アラント是故ニ彼レ親ヲ來リ探ルナリト
且ツ兒今彼ト樓下ニ遇フ兒ヲ揖シテ曰ク昨夜阿

娘一娘子ヲ教坊ニ伴フ是レ何人ソヤト妾乃チ
實ヲ以テ答フ彼レ其佐ト語テ曰ク或ハ然ラン或
ハ然ラン風姿丰采眞ニ疑フ可カラス恨ムラクハ
黎羅ノ面ヲ遮ル有リテ而シテ其眞ヲ見ル能ハサ
リシヲト蓋シ彼モ亦令嬢ヲ戀フ意ノ如シ羨ム
可シ羨ム可シト妾之ヲ聞テ以爲ラク妾等財ヲ盜
ミ人ヲ殺スモノニアラス所謂是レ政治犯ナリ而
シテ既ニ境ヲ越エテ異邦ニ入ル萬國自ラ公法ノ
存スルアリ彼レ固ヨリ以テ暴威ヲ逞ウスルヲ能
ハス然レモ彼レ私怨既ニ骨ニ入ル其禍計ノ可カ
ラス且ツ久シク吐處ニ止マルモ以テ女史ノ志ヲ
繼ク可カラス以テ我事ヲ成ス可カラス若カス述
ヲ晦シ遠ク此土ヲ遁ルハハト案頭ノ新紙ヲ閱
スレハ此夕汽船ノ米國ニ發スルアリ乃チ大ニ
喜ビ筆ヲ擲テ書ヲ遣シ紙幣ヲ其中ニ封シ札上ニ
留メテ以テ宿主ニ與ヘ更ニ嚴公ニ贈ルノ一封
ヲ草シ薄暮旅舎ヲ去リ勿々書ヲ郵筒ニ投シ直ニ
馬車ヲ僦ヒ馳セテ阜頭ニ至リ船券ヲ購フノ邊ナ
ク走テ汽船ニ入ル未タ久シカラス汽笛一聲煙ヲ
吐キ波ヲ蹴テ港灣ヲ駛出ス妾首ヲ密隠ニ出シテ
遠ク陸上ヲ見ル時ニ王維數人ノ轡吏ノ率中馬ヲ
馳セテ阜頭ニ來リ妾カ乗ル所ノ馬車ヲ探リ御者
ヲ捕ヘテ其之ク所ヲ問ヒ手ヲ舉ケ聲ヲ放テ我
船ヲ還サントス會々群客阜頭ニ充滿シ巾ヲ揮テ

別ヲ惜ム者甚タ多ク船亦漸ク遠シ船將遂ニ之ヲ
認メス轉瞬萬里又其後ノ狀ヲ知ラス誠ニ天惠ト
謂フ可シ散士曰ク今令嬢ノ語ル所忽チニシテ驚
ク可ク忽チニシテ喜フ可ク絶妙ノ譯史ヲ讀ミ絶
巧ノ演戲ヲ見ルト雖モ以テ之ニ加フル無シ唯
是レ親友ノ自ラ經歷スル所哭ス可クシテ樂ム可
カラス我情既ニ此ノ如シ況ンヤ令嬢カ情ヲ嗚
呼舟ニ蹴水ニ會スルニ當テ誰カ花間ノ遊樂ヲ期
センヤ其花間ニ吟スルニ方テ又誰カ後日ノ風雨
ヲ知ランヤ夫ノ歐洲ニ赴クト又今日ノ會アルト
ニ至リテハ皇天神明猶ホ或ハ測リ及ハサル所人
事ハ一場ノ演戲ノ如シ聚散常ナク悲喜定ム可カ
ラス一世ハ莊周ノ夢ノ如シ昨夕ノ歡會ハ是レ夢
ニシテ今朝ノ愁苦ハ是レ既ニ覺ムモノカ今朝
ノ愁苦ハ是レ夢ニシテ昨夕ノ歡會ハ是レ未タ覺
メサルモノカ茫々莫々我ト人ト皆知ル能ハサル
ナリ令嬢令嬢既ニ辛酸ノ長話ヲ聞ケリ愁容
ヲ結テ而シテ永ク沈吟セル亦何ヲカ爲サン語フ
是レヨリ前庭ニ歩シ以テ少シク精神ヲ慰メンノ
ミト相攜テ樹間ニ至ル散士枯草ニ踏シ紅蓮ヲ
仰テ曰ク古人謂ヘルアリ身窮シテ詩始メテ工ナ
リト幽蘭女史ノ咏ハ已ニ之ニ聞ケリ令嬢亦豈
得ル所ナカランヤト紅蓮曰ク歸路舟大西洋ノ
半ニ至リテ恰モ月明ニ屬ス妾獨リ甲板上ヲ徘徊

徊シテ往事ヲ追憶シ幽懷禁スル能ハス幽蘭女
史ノ我所思行ヲ朗吟シ之ニ和シテ一首ヲ得タリ
ト乃チ吟シテ曰ク
我所思兮今在回天ニ鴻業固期照ニ千年
一心據義又取仁ニ平生推易唯居難
曾聞皇天不與惡却疑天賦有厚薄
世有汚隆時或否蓬艾塞路蘭蘭落
請見喬松爲風摧百花群芳被雨猜無
賴鷓鴣逐三搏繁燕雀何處訴餘哀死
生富貴豈足恃青紫軒冕須須喜好
以二世事付二夢不問天道非與是月
橫天空千里明風搖金波遠有聲夜
寂寂兮望茫茫船頭何堪今夜情
我所思兮今在故鄉煙水迢々天一方萬
里異鄉三年客秋風拂淚賦思遠兮吾田
正爲二虎狼蹂吾盧亦奈一風雨漏
瑤臺悉頽瓊閣荒麥秀黍離狐兔走竈底
已冷甌生塵何堪食吏催科頻此
際何以救二吾兒一此時何以暖二吾
親一悲慘知誰使如此非天非神怨在
彼一躍直欲屋一鯨鯢豈圖坎窞
殆瀕死一橫大空千里明風搖
金波一遠有聲夜寂寂兮望茫茫船頭何
堪今夜情

我所思兮在二故人。一離群索居感轉頻。晨星零落人不見。獨弔三影形淚沾巾。或以巾幘脂粉。慄慄要除三。生民害。或以二黃耆垂死。身一泣。送永日。闔堵內。如二夫。蘭氏二希世賢。其義其節誰不憐。意氣投合吐心膽。共誓微軀爲國捐。天降之殃不與。惠大功未成。身先斃。思之念之恨無窮。黯然舉首問蒼帝。月橫大空千里明。風搖二金波。遠有聲。夜寂寂兮望茫茫。船頭何堪今夜情。

我所思兮在二斯身。一蟬屈却期一朝。仲豫知成敗自有數。豈爲二屯蹇失二性。眞二天步艱難如二怒浪。世途險巇似二列障。排之蕩之是吾任。區區辛酸不用惜。自古英雄出僕奴。異才往往在狗屠。一果知酒亂紛爭世。或出奇倖倖徒。寶刀在匣氣勃勃。何時能刺二姦佞骨。海若眠時天地靜。枉把二哀琴二囑二明月。橫二大空二千里明。風搖二金波二遠有聲。夜寂寂兮望茫茫。船頭何堪今夜情。

散士曰。妙謂。可。カ。ラ。ス。壯。ハ。長。鯨。ヲ。屠。ル。カ。如。ク。險。ハ。崢。嶸。ヲ。排。ス。ル。ニ。似。タリ。高。ク。天。根。ヲ。攀。チ。深。ク。牛。渚。ヲ。照。シ。妙。意。佳。景。鬼。神。ノ。會。ト。同。シ。ク。江。山。ト。爭。

ハ。可。シ。之。ヲ。幽。蘭。女。史。ノ。詩。ニ。比。セ。ハ。勝。ル。有。テ。劣。ル。ナ。シ。ト。相。笑。ヒ。相。語。テ。樹。閣。ニ。逍。遙。ス。ル。コ。久。シ。又。相。携。ヘ。テ。室。裡。ニ。入。ル。散。士。曰。ク。僕。昨。宵。寓。舍。ヲ。出。テ。ヨリ。猶。ホ。未。タ。歸。ラ。ス。舍。主。或。ハ。之。ヲ。怪。マ。ン。請。フ。是。レ。ヨリ。辭。セ。ン。紅。蓮。曰。ク。妾。此。地。ニ。留。マ。リ。テ。暫。ク。時。機。ノ。至。ル。ヲ。待。タ。ン。ト。散。士。曰。ク。君。焉。下。ヲ。以。テ。セ。ン。ハ。螢。雪。ノ。餘。高。駕。ヲ。草。廬。ニ。枉。ケ。テ。以。テ。高。論。ヲ。各。ム。勿。レ。散。士。曰。ク。學。程。極。メ。テ。繁。ク。七。日。僅。ニ。半。日。ノ。間。ア。ル。ハ。正。ニ。士。曜。ヲ。ト。シ。テ。重。ネ。テ。相。訪。ハ。ン。ト。扶。ヲ。分。テ。歸。ル。

散。士。寓。舍。ニ。歸。レ。ハ。家。人。集。マ。リ。來。リ。且。ツ。喜。ビ。且。ツ。怪。ミ。テ。曰。ク。郎。君。昨。宵。此。ヲ。出。テ。ヨリ。何。ノ。處。ニ。至。ル。吾。儕。皆。之。ヲ。疑。ヒ。相。集。マ。リ。テ。之。ヲ。議。シ。遂。ニ。其。如。何。ヲ。知。ル。能。ハ。ス。今。郎。君。ノ。容。貌。頗。ル。枯。槁。ノ。色。アリ。又。タ。衣。裳。ニ。塵。沙。ノ。痕。アル。ヲ。見。ル。是。レ。果。シ。テ。何。ノ。故。ノ。ヤ。ト。衆。交。ミ。散。士。ヲ。詰。問。ス。歸。水。ノ。祕。事。固。ヨリ。以。テ。人。ト。語。リ。難。シ。勿。卒。ノ。際。又。虛。ヲ。構。ヘ。譯。ヲ。作。ル。コ。能。ハ。ス。乃。チ。茫。然。回。顧。ス。ル。モ。良。ク。久。ウ。シ。テ。曰。ク。昨。夜。書。ニ。倦。ミ。獨。坐。月。明。ニ。對。ス。忽。チ。感。ス。ル。所。アリ。樓。ヲ。下。リ。庭。園。ヲ。徘徊。シ。興。ニ。乘。ジ。足。ニ。任。セ。テ。遂。ニ。山。水。ノ。隈。ニ。入。リ。清。嘯。微。吟。天。道。ノ。有。無。ニ。迷。ヒ。人。生。ノ。生。死。ニ。惑。シ。愈。ク。思。テ。愈。ク。迷。ヒ。漠。然。ト。シ。テ。夢。寐。恍。惚。ノ。中。ニ。相。半。セ。リ。今。ニ。及。テ。追。思。ス。レ。ハ。果。シ。テ。何。ノ。處。ニ。遊。ビ。又。何。事。ヲ。爲。シ。タル。ヤ。ヲ。知。

ル。能。ハ。ス。蓋。シ。日。本。ノ。所。謂。狐。惑。ナル。モ。ハ。歟。ト。衆。之。ヲ。聞。キ。相。曰。シ。テ。嘿。然。タリ。既。ニ。シ。テ。舍。主。告。ケ。テ。曰。ク。近。者。郎。君。元。々。勉。學。寢。食。ヲ。廢。ス。ル。ニ。至。ル。豈。遂。ニ。神。經。ヲ。病。マ。シ。ム。ル。ニ。非。ラ。ス。ヤ。向。後。唯。當。ニ。靜。居。加。餐。以。テ。精。神。ヲ。養。フ。可。シ。ト。

期。日。ニ。至。リ。散。士。歸。水。ノ。居。ニ。至。ル。紅。蓮。安。榻。ヲ。綠。陰。ニ。移。シ。身。ヲ。欹。テ。一。卷。ヲ。緝。キ。散。士。ノ。至。ル。ヲ。知。ラ。ス。散。士。潛。行。シ。テ。榻。後。ニ。立。チ。俄。然。其。背。ヲ。拊。ツ。紅。蓮。愕。然。書。ヲ。棄。テ。起。ツ。顧。ミ。テ。笑。テ。曰。ク。郎。君。何。ソ。戲。ヲ。ナ。ス。ト。相。攜。ヘ。テ。室。裡。ニ。入。リ。山。ヲ。評。シ。水。ヲ。品。シ。雜。談。影。刻。曉。ニ。至。リ。テ。歸。ル。是。ヨリ。七。值。一。日。必。ス。歸。水。ヲ。訪。フ。訪。ヘ。ハ。則。チ。流。二。棒。シ。險。ヲ。攀。チ。或。ハ。賦。シ。或。ハ。吟。シ。共。ニ。歡。ヲ。盡。サ。ル。ハ。ナ。シ。相。別。レ。ハ。情。益。ミ。悶。ニ。相。逢。ヘ。ハ。意。愈。ミ。濃。ナリ。散。士。幽。蘭。ノ。別。ル。既。ニ。遠。ク。紅。蓮。ニ。逢。フ。漸。ク。久。シ。乃。チ。紅。蓮。ヲ。愛。ス。ル。情。綿。綿。ト。シ。テ。胸。裡。ニ。生。ス。然。レ。ハ。紅。蓮。ハ。膽。略。甚。タ。勇。ナル。ニ。過。キ。權。謀。詐。術。未。タ。量。ル。能。ハ。サ。ル。モ。ノ。アリ。且。ツ。假。令。六。合。ノ。禮。ヲ。行。ヒ。歡。ヲ。同。牀。ニ。結。フ。雖。モ。紅。蓮。ノ。志。偏。ニ。父。母。ノ。仇。讎。ヲ。報。シ。愛。蘭。ヲ。獨。立。ス。ル。ニ。在。リ。テ。暫。ク。米。國。ニ。假。居。ス。可。キ。モ。日。本。ニ。來。リ。テ。安。棲。ス。ル。ハ。心。ナ。ク。散。士。モ。亦。仇。讎。佳。人。ヲ。得。テ。萬。金。ノ。富。致。ス。モ。永。ク。外。國。ニ。移。住。ス。ル。ノ。念。ナシ。故。ニ。謂。ラ。ク。一。時。ノ。癡。情。後。憂。ノ。種子。ノ。ミ。ト。乃。チ。鄭。子。カ。九。尾。ノ。狐。ニ。逢。テ。而。シ。テ。愛。憐。ス。

ルヲ愧チ孫生カ兩頭ノ蛇ヲ見テ而シテ決斷スル
ニ倣ヒ相親テ而シテ相狎ル、ニ至ラス之ニ加フ
ルニ能ク兩人カ情ヲシテ斷スルニ至ラシムルア
リ埃及ノ戰爭是ナリ
一日新誌ヲ聞ス埃及ノ元帥亞刺飛侯ノ四方ニ檄
スル文アリ曰ク

蓋聞ク非常ノ事アリテ然シテ後非常ノ功アリ
ト我先王威士明流外人ノ尊怒ヲ憤リ人民ノ窮
困ヲ歎シ他邦ノ干涉ヲ絶チ國權ヲ復シ賦稅ヲ
輕クシ汝蒼生ヲ救ハント欲ス創業未タ就ラス
中道ニシテ英佛ノ爲メニ脅迫セラレ恨ヲ飲ミ
位ヲ去リ他郷ニ蒙塵ス前宰相征戎駒侯果斷
不屈亦遂ニ英佛ノ爲メニ讒陷セラレ炎熱萬里
ノ沙漠ニ放謫セラレ嗚乎我カ賢王ハ他國ニ蒙
塵シ我カ忠臣ハ沙漠ニ飄零ス我輩之ヲ思フ每
肝腸寸斷血淚雨ノ如シ今ヤ外人内ノ政柄ヲ
握リ外ノ萬機ヲ斷シ我カ立憲公議ノ議決ハ彼
ノ拒ム所トナリ我カ國人民ノ哀願ハ彼ノ顧
ミサル所トナレリ堂堂タル我カ國權今何ニカ
在ル我カ王屋弱制ヲ外臣ニ受ケ先王播遷ノ後
徒ニ虛器ヲ擁スルノミ天下ノ事已ニ此ノ如シ
國歩艱難天日明ヲ失フ此時ニ當リ凶ヲ夷ケ亂
ヲ剪リ國家ヲ將ニ覆ラントスルニ救フ者豈非
常ノ事ニ當リ非常ノ功ヲ立ツト謂フト云ハサ

ルヘケンヤ嗚乎英佛ノ我カ財政ニ干涉シ私利
ヲ營ミシヨリ賦稅數倍シ十三ノ幼童尙ホ人口
ノ苛稅ヲ免レス學ヲ講シ理ヲ究ムルノ學士人
口稅三倍ノ學士稅ヲ徵セラル其レ此ノ如キノ
急征暴斂四海載籍ノ未タ曾テ記サハ所榮紂
ノ暴殄狼戾羅君ノ惡亦何ツ之ニ及ハヤ是ニ
於テ九州貫ヲ解キ海内紛擾離江千里ノ沃野モ
以テ汝父老半日ノ饑ヲ養フニ足ラス南地五百
里ノ森林モ亦妻子ノ饑ヲ救フ能ハス鳳ニ興キ
夜ニ寢ネ終歲赤道直下熱沙ノ中ニ暴露シ手足
蹠蹠洋流レ體痛ミ猶ホ且ツ父母妻子ヲ保ツ能
ハス外吏日ニ迫リ賦稅ヲ嚴責ス炎帝ノ三角
塔上ニ怒ルカ如ク汝カ家財ヲ沒滅ス沙漠ノ
颶風ヨリモ猶ホ劇シ嗚乎嗚乎我カ膏血ハ空ク
毒蛇ノ渴ニ供シ我カ粉粒辛苦ハ徒ニ豺狼ノ飢
ニ充ツ豺狼猶ホ未タ飽カス我カ禁衛ノ兵ヲ解
キ我カ護國ノ兵ヲ散シ我カ劔ヲ鎖シ我カ糧ヲ
盜ミ而シテ己レ厭クナキノ慾ニ充テ竊ニ我カ
羽翼ヲ殺キ暗ニ我カ手足ヲ縛シ然レ後ニ我カ
連綿千歲父母ノ鄉國ヲシテ歐人ノ版圖ニ歸シ
我カ同胞兄弟ヲシテ彼レカ臣妾タラシメント
欲スルノミ試ニ日ヲ張リテ今日ノ域中ヲ觀ヨ
是レ遂ニ誰家ノ天下ソヤ今ヤ天怒リ人怨ミ恨
憤懷ニ盈チ裂眦扼腕劔ノ室ヲ出ツルカ如ク矢

ノ弦ヲ離ルカ如ク亦收ム可カラサルナリ長
ク鬱スルモノハ奮ハント思ヒ久シク屈スル
モノハ仰ヒント思フ天下ノ失望ニ由リ宇内
ノ推心ニ從ヒ愛ニ義旗ヲ舉ゲテ妖孽ヲ清メ
上ハ先王ノ幽憤ヲ慰メ下ハ同胞ノ仇讎ヲ報セ
ント欲ス皇天照臨祖先威ヲ垂ル是ヲ以テ敵ヲ
制セハ何ノ敵カ摧ケサラン此ヲ以テ功ヲ圖ラ
ハ何ノ功カ就ラサラン英佛ハ天下ノ強國雄兵
百萬戰艦林ノ如シ我カ孤軍ヲ以テ之ニ當ル任
重クシテ道遠ク事難クシテ禍速カナリ然リト
雖ホ生テ外人ノ奴隸トナリ奄奄ノ餘喘ヲ鞭撻
ノ苦界ニ求メンヨリハ寧ロ忠義ノ鬼トナリテ
芳ヲ竹帛ニ留メ名ヲ後昆ニ垂ルニ孰レソヤ
此役ヤ忠臣肝腦地ニ塗ルノ秋烈士功ヲ立ツル
ハ會所謂非常ノ事アリテ而シテ後非常ノ功ア
ルモノナリ易メヨヤ將士躊躇罪ヲ得ル勿レ
散士朗讀再三案ヲ拍テ曰ク壯快ノ文ナリ賂賈王
カ僞周武氏ヲ伐ツノ機ヲ如シト明日之ヲ懷ニ
シテ蹄水ニ趣ク紅蓮密ニ倚リ呼テ曰ク妾郎君
ヲ待ツ久シ請フ速ニ來レト散士裡ニ入ル紅蓮
乃チ昨飛報アリ曰ク先キニ英國遠征ノ軍ヲ起シ
一擊シテ埃及ヲ服シ大ニ其内治ニ干涉セント欲
ス而ルニ埃及ノ民激昂奮起之ヲ國境ニ拒キ歲月
彌久成敗未タ判ス可カラスト是レ豈吾黨ノ一大

吉報ニ非ラサハ蓋シ妾カ本國ノ外患アルヲ俾
フハ甚タ怪ム可キ者ノ如シト雖氏英國ノ吾黨
ニ於ケル怨アリテ思ナシ故ニ暴矣ノ何覆ハ吾黨
ハ祈ル所ナリト散士曰ク聞ク英ノ自由黨ハ義
ニ據リ道ニ從ヒ平和ヲ以テ其主義トナスモノナ
リト近頃英國ノ政權ハ自由黨ノ掌握スル所タ
リ豈漫ニ無名ノ師ヲ起シ友邦ノ内治ニ干渉スル
コト之レ爲サンヤ今日ノ事豈其已ムヲ得サルニ
出ツルニ非サルナカラシカ紅蓮曰ク是レ徒ニ
其名ニ迷フ者ノミ世ニ名實ノ相反スルモノ多シ
郎君何ツ其實ヲ察セサル今女皇即位以來ノ政蹟
ヲ考フルニ友邦ト干戈ヲ交フルモノ二十五回而
シテ其二十回ハ皆自由黨政府ノ爲ス所ナリ豈名
ヲ以テ其實ヲ推シ可ケンヤ蓋シ英人ノ外交ニ於
ケル利己ヲ以テ其主義トナスニ至テハ保守自由
ノ別アルナシ散士曰ク令娘ノ見ル所ヲ以テ
英埃向後ノ大勢ヲ計ラハ果シテ如何ソヤ紅蓮
起テ一小冊子ヲ机上ニ取り顧ミテ曰ク郎君未
タ英國ノ志士印度修狀史ノ記者清茂流惠カ英
國清史ヨリ抄萃編纂セル埃國修狀史ヲ讀マサ
ルカト散士受ケテ樓廊ニ出テ長椅ニ倚テ之ヲ
讀ム其大略ニ曰ク

我カ大英國ハ立憲公議ノ始祖ナルヲ以テ常ニ
宇内ニ誇視シ宇内各國モ亦皆稱賛シテ止マサ

ル所ナリ而ルニ埃及人民カ立憲公議ノ政體ヲ
組織セントスルニ方リ大英國ハ權謀詐術カヲ
盡シテ之ヲ破壊セント欲スルハ何ソヤ蓋シ埃
及國ニシテ立憲公議ノ政體ヲ組織シ公議輿論
ヲ以テ政令ヲ施行スルニ至ラハ從來英人カ施
行シタル專横不正ノ條約ニ服從セザランコトヲ
忍レレハナリ是レ悖戾暴逆ノ最モ甚タシキモ
ハニシテ其臭名ハ千載青史ニ留マリテ永ク消
滅スルハ期ナカラン請フ嘗試ニ之ヲ論セン
埃及王大ニ歐風ニ心醉シ百事歐人ヲ顧問ト
ナシ文物典章ヨリ以テ衣服飲食ニ至ルマテ
舊慣ヲ棄テ、歐風ヲ模擬シ費用日ニ萬大ニ
赴キ國庫漸ク空乏ヲ告グ英佛無賴ノ徒之ヲ見
テ竊ニ計ル所アリ乃チ一億萬金ヲ埃及王ニ貸
與セリ抑モ土耳其政府ハ埃及ノ内政ニ干渉ス
ルノ權ヲ有スル者ニシテ曾テ歐人ノ詐術ニ
陷リ幾多ノ艱難ヲ經歷シ自ラ前車ノ誡メヲ
踏ミ履鑑ノ恐ル可キヲ知レリ當時埃及ノ國歩
漸ク安カラサルヲ見テ豫メ其救フ可カラサ
ランコト知リ嚴令ヲ發シテ私ニ國債ヲ募ルコ
ト禁セリ時ニ西歐資金充盈シテ之ヲ使用スル
ハ事業ナク海外ノ好市場ヲ求ムルハ餓者ノ肉
ニ於ケルカ如ク渴者ノ水ニ於ケルカ如シ是ニ
於テ英佛無賴ノ徒又一策ヲ案シテ曰ク苞苴ナ

ル哉苞苴ナル哉ト乃チ黃金五百萬ヲ以テ土
廷執政ノ大臣及ヒ帝ノ左右ニ賂ヒ遂ニ土帝
ヲシテ外債特許ノ證印ヲ埃及王ニ與ヘシム
是ヨリ未タ數年ナラスシテ英佛ノ民遊金三億
六千萬ヲ運轉シテ悉ク射利ノ用ニ供シ其息
ノ如キモ三割ノ高利ニ達スルモノアルニ至ル
嗚呼姦商ノ爲ス所固ヨリ惡ム可シ然レハ是レ
市井ノ小人ノミ彼ハ上流歐人ニシテ身ハ埃及
王ノ顧問トナリ其恩寵ヲ蒙リ其俸祿ヲ受ケ傍
觀坐視當ニ之ヲ匡救セサルハミナス更ニ煽
動誘惑シテ此大債ヲ起シ救フ可カラサルノ窮
途ニ沈淪セシムル者ニ至テハ是レ所謂恩ニ報
スルニ怨ヲ以テシ人ノ苦ヲ以テ自ラ樂ム者經
令人ニ向テ恬然タルモ豈自ラ省ミテ愧ツル所
ナカランヤ今埃及毎歲ノ財政ヲ算スルニ歲入
僅ニ四千萬ニ過キス而シテ外債ノ息三千萬ノ
巨額ニ達ス嗚呼古往今來財政ノ紛亂スルコト此
ノ如キノ國アラシキ租稅日ニ酷ニシテ民愈ミ
疲レ地益ミ荒レ歲入却テ減縮シ之ヲ往歲ノ
租稅ニ較スルニ一千萬ヲ減スルニ至ル而シテ
外人ノ埃及政府ヨリ攫取セル利息外ノ金額
ハ四年間ニシテ六千萬ニ達セリ國庫ノ空乏此
ノ如ク財政ノ困難此ノ如シ外債ノ息何ヲ以
テ能ク辨スルコト得ン歐人又外債ノ期迫ル

ヲ見テ視シテ曰ク時漸ク來レリ是レヨリ後唯
我カ欲スル所ハマ、ハミ、日ニ政府ニ迫リ息
金ヲ促スコト甚タ急ナリ政府之ヲ如何トモス
ルコト能ハス唯首ヲ垂レテ延期ヲ乞フノミ是ニ
於テ歐人連衡シテ埃及政府ニ迫テ曰ク國庫ハ
空乏ヲ告クルハ有司私利ヲ營ミ財政當ヲ得サ
ルニ在リ若シ歐人ヲシテ之ヲ監督料理セシメ
ハ百事整頓禍ヲ轉シテ福トナス可シト然レハ
埃及人敢テ肯セス依テ英國大臣嗾瞞ヲ遣
テ之ヲ促サシム宰相征戒駟固ク執テ動かス可
ヘテ曰ク古人曰ク名ト器トハ以テ人ニ假ス可
カラズ若シ一タヒ財政ノ全權ヲ以テ之ヲ外人
ニ委ネ租税ノ輕重國庫ノ開閉其掌中ニ歸スル
ニ至ラハ是レ國家ノ大權既ニ我カ國ヲ去ルモ
ハナリ近者貴國此要求アリテヨリ國內ノ志士
激動奮起訛言百出警報頻ニ到ル僕苟モ今日ノ
大任ニ當レリ假令死ストモ此大權ヲ以テ外人
ニ與ヘ難シト其後未タ數日ナラス警吏アリ征
戒駟ノ郎ヲ圍ミ叫曰ク聞ク足下人民ヲ煽動
シテ亂ヲ起シ以テ歐人ヲ掃ハント欲スト縛シ
テ獄舎ニ下シ更ニ誣ヒテ曰ク竊ニ計ヲ外人ト
通シ専ラ私門ヲ營ミ國用ヲ濫消ス惡逆不敬天
地ノ容レサル所ナリト即日炎熱萬里ノ沙漠ニ
放謫シ又法廷ニ出テ一言ノ辯明ヲ爲ス能ハ

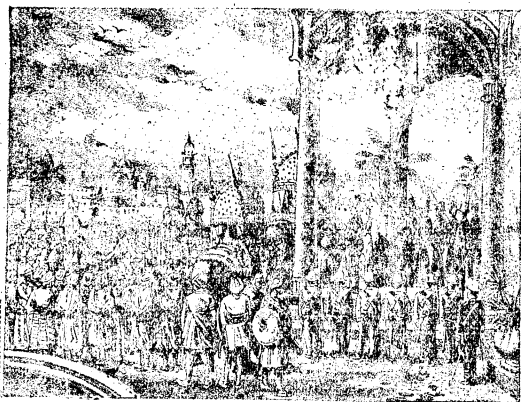
サラシム鳴手誰カ此毒計ヲ行ヒタルモノッ諺
ニ曰ク羊ヲ牧シテ豺ヲ畜ヘ魚ヲ養ウテ鱸ヲ繼
ニス其犯ス勿カラシムコトヲ欲スト雖得ンヤ既
ニシテ英佛ハ財政ノ大權ヲ奪ヒ又憚ル所ナ
ク志ニ帶稅ヲ徵シ又酷賦ヲ課シ鞭撻前
ニ在リ御戟後ニ在リ人民弊類財政是ニ至テ全
ク壞廢ニ歸ス鳴手法ヲ治ニ作ル其弊猶ホ亂ル
法ヲ亂ニ作ル誰カ能ク之ヲ救ハンヤ
英人猶ホ以テ足レト爲サス總領事ヲシテ
埃及王ヲ責メシメテ曰ク外人ヲ聘シテ其作
祿ヲ遲滯スルハ何ソヤト埃及王答ヘテ曰ク今
ヤ士卒貧困商民流離慘憺ノ狀實ニ甚タシク目
見ルニ忍ヒス耳聞クニ堪ヘス一國ノ力ヲ傾ケ
汲汲之ヲ振恤セント欲スルモ亦計ノ出ツ可キ
ナシ是レ卿等ノ親ヲ見聞スル所ニアラスヤ然
リ而シテ卿等事ニ託シ詞ヲ飾リ必ス要セサル
ノ歐人ヲ強テ飽クナキノ高祿ヲ求ムルハ果シ
テ何ノ心ゾヤ其少ク遲滯スルカ如キハ素ヨリ
自ラ甘ス可キ所ノミト領事曰ク陛下歐人高
祿ヲ貪ルト爲スハ非ナリ財政ヲ料理シ租稅ヲ
徵集シ道路ヲ改築シ運河ヲ開鑿シ道路ヲ築キ
橋梁ヲ架シ事務ヲシテ整進歩セシメタルモ
ハ是レ癡癡陋劣ノ埃及人ノ能クスル所ニアラ
ス歐人ノ功豈鮮少ナランヤ貴邦ノ貧窮困厄ノ

如キハ我英人ノ預リ知ル所ニ非ラス貴邦ノ貧
弱ニ陷リタルハ亦我カ英國ノ預リ知ル所ニ非
ラサルナリ我カ大英國女皇陛下ノ臣民ハ埃及
人民カ貧富如何ニ由テ自己ノ權利ヲ傷ケ自己
ノ損害ヲ甘スルノ責任ヲ有セサルナリト埃及
王之ヲ聞キ憤怒シテ曰ク汝歐人常ニ謂ハスヤ
政體ノ如何ヲ問ハス苟モ在留シテ保護ヲ受ケ
ルモノ有レハ賦稅ヲ其政府ニ納メサル可カラ
サルハ萬國ノ公法ニシテ免ル能ハサル所ナリ
ト而シテ汝歐人ノ我境內ニ在ルモノ其數十萬
ヲ超エ言行相反シ邪說僞辯皆賦稅ヲ拒ミ曾テ
一人ノ國費ヲ負擔スルモノナシ加之ナラス警
察ヲ異議シ道路ヲ非難シ專恣橫行至ラサル所
ナシ且ツ治外法權ヲ奇貨トシ不正ヲ行ヒ非理
ヲ踏ムモ我カ民之ヲ如何トモスルコト能ハサル
ヲ知リ常ニ密賣ヲ事トシ我カ海關ノ定法ヲ破
リ以テ無功ニ歸セシメ而シテ全國ノ歲入ハ皆
汝歐人ノ吸收スル所トナル汝歐人ハ其德ヲ逞
ウシテ我カ政費ヲ制限シ僅ニ五百萬ニ減殺セ
シメタルニ非ラスヤ窮乏困難財政ノ此ニ至レ
ル所以ノ者是皆汝歐人ノ監督施行セシ政策ノ
ミ汝歐人カ予ヲ欺キ國ヲ誤ラシメタルノ結果
ノミ鳴手汝英人始メハ懇ニ厚意ヲ表シテ而シ
テ今ヤ反目仇讎ノ如キ者ハ何ソヤト切齒涕ヲ

揮ヒ顧スシテ裡ニ入ル
是ニ於テ英人獨リ之ヲ如何トモスルヲ能ハス
仍テ萬國會議ノ決案ト僭稱シ埃及政府ヲ要シ
テ曰ク歐人ノ遠ク萬里ノ殊域ニ來リ鞠躬力
公務ニ盡スモノハ自ラ好テ徒ニ爲スニ非
ラサルナリ而シテ埃及政府往往僭稱ヲ遲滯シ
甚ダシキハ口ヲ國庫ノ缺乏ニ假リテ減俸ノ論
アルニ至ル是レ我カ歐人ヲ奴隸使セント欲ス
ルカ我カ歐人ハ東洋諸邦ノ人民ト異ナリ報酬
ナクシテ徒ニ使役セラル、奴隸ニ非ラサルナ
リ聞ク王室猶ホ私財巨萬ヲ有スト宜ク之ヲ散
シテ以テ國債ノ責ヲ塞ク可シト上下其妄慢ヲ
怒リ之ヲ不可トシテ曰ク國財私財其別固ヨリ
判然タリ未タ王室ノ私財ヲ以テ外國ノ公債ニ
供スルノ義務アルヲ聞カサルナリト歐人依テ
之ヲ法廷ニ訴フ法廷ハ高官ハ皆歐人ナラサル
ナシ遂ニ文ヲ舞シ法ヲ枉ケ埃及王ヲシテ敗訴
ニ歸セシム嗚呼歐人暴戾ナリト雖モ豈公產私
產ノ別ヲ知ラサルヤ豈邪正理否ノ分ヲ解セ
サルヤ唯其衰弊ノ餘父爲ス能ハサルヲ見テ
私慾ノ爲メニ公道ヲ忘ル、ノミ又假シ埃及ヲ
シテ國富ニ兵強カラシメハ豈手ヲ拱シテ歐人
ノ非道ニ服センヤ豈口ヲ箝シテ歐人ノ殘逆ニ
從ハンヤ國アレハ財ナク兵アレハ力ナク空シ

ク豺狼ノ慾ニ屈シ王室ノ財產宮殿器物ヨリ土
地牛羊ニ至ルマテ皆其掠奪スル所トナル歐人
ノ管戾苛逆亦甚ダシカラスヤ一千八百七十
九年更ニ政府ニ強ヒテ歐人二百五十人ヲ公
職ニ就カシメ政費三十萬ヲ増シ明年又百十
二人ヲ増シ三十萬ヲ加ヘ其後歐人ノ官職ニ
入ルモノ陸續絶エス一千八百八十二年ニ至
リテハ歐人ノ埃及政府ニ仕ヘテ租税ニ衣食ス
ル者其數一千二百五十人ニシテ其財ヲ糜ス
コニ二百萬ヲ超ユルニ至レリ是レ皆義ヲ忘レ
テ利ヲ射ルノ徒ニシテ無用ノ事業ヲ起シ冗
費遊員ヲ作ルヲ務ムルノ媚語ニ謂ヘルアリ
取レハ則チ是レ利取ラサレハ則チ是レ愚ト當
日歐人ノ心蓋シ此語ニ外ナラサルナリ
歐人猶ホ埃及ノ將士ヲ憚ル密ニ相談シテ曰ク
宜シク事ニ託シテ兵員ヲ汰シ將士ノ俸祿ヲ減
ス可シ是レハ其羽翼ヲ殺テ以テ枕ヲ高クス
ルヲ得一ハ其餘賁ヲ配取シテ以テ自ラ利ス
ルヲ得ハト乃チ大ニ兵員ヲ解キ又將士二
千五百ノ俸祿ヲ半減シ告ケテ曰ク國用給セス
下民饑ニ泣ク暫ク國家ノ爲メニ忍フ可シト而
シテ歐人ノ俸給ハ依然舊ノ如シ其後貪婪愈ミ
甚ダシク更ニ有司千人ヲ退ケテ曰ク國用給セ
ス下民飢ニ泣ク暫ク國家ノ爲メニ忍フ可シト

而シテ歐人ノ俸給ハ依然舊ノ如シ繼テ又苛稅
ヲ土地ニ課シテ曰ク國用給セス下民饑ニ泣ク
暫ク國家ノ爲メニ忍フ可シト而シテ歐人ノ俸
給ハ依然舊ノ如シ專横ノ政壓抑ノ令此ノ如シ
而シテ歐人猶ホ以テ足レリトセス更ニ法ヲ矯
メ律ヲ枉ケ土地一億萬項ヲ沒收シテ曰ク國用
給セス下民饑ニ泣ク暫ク國家ノ爲メニ忍フ可
シト而シテ歐人ノ俸給依然舊ノ如シ時勢茲ニ
至ル誰カ奮起セサルヤ四方ノ志士腕ヲ挽シ
憤慨シ圍國ノ人民涕ヲ揮テ嘯集シ宣言シテ
曰ク權臣ヲ退ケ姦人ヲ除キ耶蘇教徒ヲ鑿殺ス
可シト蘇丹ノ如キハ獨立シテ自治ノ政ヲ爲サ
ント唱ヘ亞刺飛將軍ヲ推シテ盟主トナシ血
ヲ啜テ歐人ト共ニ朝ニ立タサルヲ誓ヒ更ニ紳
士僧侶六十人文武ノ官職七十人紳商四十
人人民ノ代理者六十人ヲ會シテ國是ヲ議シ書
ヲ埃及王ニ上リテ曰ク
歐人ノ禍心ヲ包藏スルヤ久シ面ニ慈愛ヲ街
テ腹ニ鴆毒ヲ抱キ浸潤ノ計治漸ノ術以テ今
日ニ至レリ今ヤ内閣ハ既ニ其左右スル所ト
ナリ財政ノ權工商ノ利皆其專有壟斷ニ歸セ
リ往々將ニ兵權ヲ奪ヒ邦士ヲ擧ゲテ之ヲ掌
中ニ握ラント欲スルハ犀牛牛渚ニ燒クヨリ
モ猶ホ明ナリ今日天下ノ民萬衆一心財政監



(畫插本原)

圖ルが出ヲ官ナリハ幕ヲ位王及現

督ノ英人ト工部總理ハ師人トヲ斥ケ其肉ヲ食ヒ其骨ヲ燒カント欲セサルハナシ蓋シ是レ積惡ノ果ニシテ衆怨ノ集ル所又免ル可カラサルモノナリ陛下今ニシテ彼二人ヲ退ケ民望ニ從テ立憲公議ノ良政ヲ建テ公衆ト謀テ國費ヲ課シ不急ノ土木ヲ廢シ無用ノ工業ヲ停メ民ト共ニ休息セシムハ禍必ス蕭牆ノ中ヨリ起リ言フニ忍ヒサルノ慘境ニ陷ラン希クハ陛下下之ヲ裁セヨ

之ヲ聞テ欣然雀躍視シテ曰ク吾輩是レヨリ始メナ蘇思スルコトヲ得ント歐人ハ之ニ反シテ憤激最モ甚タシク英ノ總領事ハ直ニ馳セテ王宮ニ至リ志ニ大臣ヲ黜陟スルノ非ヲ讓メ且ツ曰ク聞ク陛下密ニ人民ヲ鼓舞シテ立憲公議ノ政體ヲ獎勵スルト抑々立憲ノ政體ヲ主唱スル者ハ一失意ノ徒私利ヲ營ミ不平ヲ漏サント欲スルノ致ス所ナリ陛下何ソ覺テサルヤ事ニ及テ之ヲ悔イハ臍ヲ腦ムモ猶ホ及フ可カラス陛下速ニ彼二人ノ官爵ヲ復シ立憲政體ノ組織ヲ停止セシム可シ妖雲ノ爲メ光明ヲ失フコト勿レト王曰ク是レ全國ノ輿論ナリ予カ最モ望ム所ナリ諸臣ノ陰謀ニ非ラサルナリ又夫ノ大臣ヲ黜陟スルカ如キハ其權予ノ有スル所何ソ獨リ怪ムニ足ランヤ抑々汝歐人常ニ立憲ノ美ヲ贊スルニ非ラヌヤ公議ノ政ヲ誇ルニ非ラヌヤ又之ヲ以テ他國ヲ誘導スルニ非ラヌヤ而シテ今予億兆ノ望ニ從ヒ立憲公議ノ美政ヲ組織セント欲セバ之ヲ障礙シ之ヲ非難シ以テ己カ私慾ヲ逞ウセント要ス予復タ汝ヲ見ルコトヲ欲セサルナリト是ニ於テ英人諸歐人ト議シテ曰ク王憤然殊ニ甚タシク久シク其位ニ在ラシメハ吾輩歐人ノ禍測ル可カラスト各々隱ニ計ヲ構ヘ交ミ其政府ニ讒シテ曰ク埃

及王妄ニ邪教ヲ信シ聖教ヲ蔑視シ歐洲各邦ノ友義ヲ顧ミ思恩ニ報スルニ仇ヲ以テシ將ニ歐人ヲ驅逐シテ之ヲ境外ニ掃ハント欲ス其形跡已ニ明ナリト既ニシテ英佛二國ノ總領事兵ヲ率キテ王宮ニ迫リ王ヲ脅シテ曰ク子カ王位ニ即テヨリ苛稅ヲ課シ釐稅ヲ徵シ百姓ヲ恤マス士卒ヲ愛セシ田園荒蕪財帛空乏内ニハ臣民ノ嫌厭ヲ來シ外ニハ歐洲諸國ノ歡心ヲ失フ速ニ王位ヲ去ラサレハ夫レ埃及ノ存亡ヲ如何ト王痛憤深慨但タ事勿卒ニ起リ與ニ謀ル可キナク邦小ニ力弱ク父之ニ抗スルコト能ハス袞冕龍衣皆歐人ノ褻奪スル所トナリ灌然涕ヲ飲テ王宮ヲ出テ九重ノ門ヲ過キ祖先墳墓ノ地ヲ追ハレ遂ニ他鄉ニ流寓スルニ至レリ英佛ノ民王ヲ立テ位ニ即カシメ擅ニ政柄ヲ左右シ急政暴戾愈々益々甚タシク國人外人ノ擁立スル所ナルヲ以テ心ヲ新王ニ屬セス民心離散國勢陵夷盜賊四方ニ起リ萬姓亂ヲ思フ偶々陸軍ノ軍隊大佐三人ヲ選テ王宮ニ至リ請ハシメテ曰ク外人ノ職權ヲ免シ以テ國威ヲ挽回ス可シト歐人王ニ勸メテ直ニ之ヲ拘捕セシム軍隊ノ激怒犯ス可カラサルヲ恐レ即チ之ヲ免ス既ニシテ八月九日ニ至リ數千ノ將士王宮ヲ圍ミ亞刺飛侯ヲシテ王ニ請ハシメテ曰ク

第一國ヲ竄ルノ内閣ヲ解散ス可シ第二國會ヲ
設立シテ萬機公議ニ決ス可シ第三兵制ヲ嚴ニ
シ以テ危急ニ備フ可シト英人ノ之ヲ聞キ直ニ本
邦ニ飛報シテ曰ク埃及ノ人民王ヲ要シテ公議
ノ政ヲ建テント欲ス然レモ是レ本ヨリ人民
ハ興望ニ非ラス亞刺飛ノ煽動スルニ由ルハミ
亞刺飛ハ桀獠ノ梟雄ニシテ深ク邪教ヲ信シ最
モ聖教ヲ惡ム者ナリ故ニ彼ヲシテ一タヒ政權
ヲ握ラシメハ必ス聖教ヲ撲滅シ歐人ノ權利ヲ
凌キ生命財産ヲ蹂躪シテ又顧ミル所ナカラシ
宜シク急ニ兵馬ヲ遣テ其勢力ヲ挫折スヘシト
時ニ埃及全國ノ新誌日ニ歐人ノ專橫暴戾ヲ鳴
ラシ國權恢復ヲ唱ヘ民心ヲ鼓舞誘掖セサル
ハナシ歐人之ヲ恐レ政府ニ迫リ新誌ヲ發行ヲ
禁止セシム鳴乎英佛ハ言論ノ自由ヲ重スルハ
邦國ナリ而シテ今此ノ如シ專橫亦甚ダシカラ
スヤ既ニシテ埃及國會ヲ開キ廣ク人オヲ選テ
百事ヲ討議ス英人又抗シテ曰ク敢テ我カ國
ニ謀ラス恣ニ制令ヲ施行シ妄ニ賦稅ヲ増減ス
是レ權ヲ越テ而シテ吾政府ヲ蔑ニスルモノナ
リト直ニ兵艦ニ令シ歷山港ニ向ハシム鳴乎吾
英國自由議院ハ弱ヲ凌キ非テ遂ケ禽獸野蠻ノ
世ニ模倣シ恬然愧ツル所ナク傲然自ラ以テ得
タリトナス何ソ其無道ノ甚タシキヤ群羊ハ固

ヨリ猛虎ト搏シ難シ久シカラスシテ英人必ス
能ク埃及ヲ討平シ其意ノ欲スル所ヲ逞ウスル
ヲ得ン鳴乎埃及ノ人民果シテ何ノ罪カアル
國ヲ守リ家ヲ衛ラント欲シ身ヲ砲彈雨ノ下
ニ殺シ尸ヲ沙漠ノ中ニ暴シ空シク餓死ノ食ト
ナランカ鳴乎埃及ノ子弟何ノ罪カアル幸ニ身
ヲ兵亂ノ中ニ全ウスルモ倉焚飽クナキノ歐人
數千其欲ヲ横ニスルアリ膏血既ニ盡キテ山谷
ノ間ニ餓死シ空シク豺狼ノ食タランカ鳴乎大
英國仁慈徽聖女皇陛下ノ政府ハ果シテ此ノ如
キモノカ鳴乎自由政黨ノ政略ハ果シテ此ノ如
キモノカ
散士一氣之ヲ讀ミ悲憤ノ情胸中ニ鬱積シ覺エス
卷ヲ掩ウテ大息ス紅蓮更ニ一新誌ヲ手ニシ散士
カ側ニ立チ示シテ曰ク郎君請フ此ノ一章ヲ見ヨ
ト散士容ヲ改メテ之ヲ讀ム曰ク埃及ノ軍中ニ
一老將アリ齡七十許一娘子ヲ攜ヘ常ニ亞刺飛侯
ノ帷帳ニ參シ最モ軍略ニ富ム人其來歴ヲ知ル者
ナシ或ハ謂フ西國ノ人ニシテ頓加羅黨ノ殘將ナ
リト兩人相見テ茫然語ナキモノ之ヲ久ウス